令和４年度目的別事業群説明書（決算）

【東広島市教育委員会関係分】

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	2　乳幼児期における教育･保育の充実
施策の将来の目標像	子どもたちの健やかな成長のため、子育て家庭に必要な養育力が備わり、質の高い教育･保育環境が整っています。		

施策の数値目標	指標	現状値（Ｒ１年度）	目標値（Ｒ６年度）
	子どもの育ちを実感できる人の割合	―	90%

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	①　幼児教育･保育の充実	主管部局・所属	こども未来部　　保育課
関係部局・所属	学校教育部　　指導課		

3　目指す姿と戦略

目指す姿	質の高い教育･保育環境が整っている	現状	受け皿確保に優先的に取り組んでいる

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
教育･保育人材の資質の更なる向上と、保育環境の充実が必要である	乳幼児教育･保育の質の向上（施設における育成支援）	中	1

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）	目標値及び実績値	R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	幼稚園に通わせている保護者の、教育又は保育への肯定的回答（楽しんで通っている）の割合	95.0	上段：目標値	98	98	98	98	%
		(　H30　)	中段：実績値	96	96		(　R6　)	
			下段：達成率	98.0%	98.0%		98.0%	
(ｲ)	保育所に通わせている保護者の、教育又は保育への肯定的回答（楽しんで通っている）の割合	0	上段：目標値	98	98	98	98	%
		(　H30　)	中段：実績値	93	90		(　R6　)	
			下段：達成率	94.9%	91.8%		91.8%	
(ｳ)		(　　)					(　　)	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	当初予算額 一般財源	決算額	決算額 一般財源	人件費
	R　年 3　度	13,484	10,292	9,343	7,660	
	R　年 4　度	21,413	18,037	15,357	13,179	12,915千円

６　戦略を構成する事務事業　　（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	3･2･1 保育の魅力向上推進事業	保育課	2.90	13,380 9,310	21,377 15,357
1-2	10･4･1 幼保小連携推進事業	指導課	0.05	104 33	36 0
合計			2.95	13,484 9,343	21,413 15,357

７　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）　※決算額には繰越を含む。

差額	6,056千円	分析	新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインでの研修となったことによる旅費等の減による。

８　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	94.9%	分析	教育･保育内容について、保護者から概ね肯定的な評価を得ている。

９　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	子ども主体の視点での保育環境づくりを拡充する取組みなどにより、市全体として乳幼児教育･保育の質の向上を実践している。また、教育･保育の質に対する保護者の関心が高まる中、アンケート結果では高い満足度を示している。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	研修の一部を民間委託することにより、効率的かつ効果的な運用ができた。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染症対策のため、研修の一部について、実施方法をオンラインなどに変更することで影響を最小限に抑えることができた。

１０　総合評価

総合評価	A	＜総評＞ 「ひがしひろしま乳幼児教育･保育アクションプラン」に基づく取組みを、概ね計画どおり進めることができた。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
「ひがしひろしま乳幼児教育･保育アクションプラン」に基づき、保育士研修や保育環境づくりの充実を図ったが、施設によって取組状況に差がある。	→	先進的な施設の取組内容を、市内の施設で共有し、水平展開することで、保育環境の充実への取組を市全体へ波及させる。 あわせて、保育士研修等を通じた資質の向上も継続していく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	2　乳幼児期における教育･保育の充実	①　幼児教育・保育の充実

事業の概要			
戦略	1　乳幼児教育･保育の質の向上（施設における育成支援）	予算　21,413 千円	決算　15,357 千円
事務事業	1-1　保育の魅力向上推進事業	予算　21,377 千円	決算　15,357 千円

内容

1-1_保育の魅力向上の推進

①　保育士等を対象とした研修の充実（4,641 千円）

ア　子育てサポート研修（うち 1,840 千円）

保育や子育て支援に関する専門的知識及び技術について　研修を実施し、保育の実践に繋げた。

（研修コース）乳児保育、幼児教育、障害児保育、食育・アレルギー、保健衛生・安全対策、保護者支援・子育て支援

イ　キャリアアップ研修（うち 247 千円）

保育士の処遇改善につながるキャリアアップ研修を市内で開催した。

（研修コース）乳児保育、マネジメント

ウ　東広島市保育コーディネーターを対象とした研修（うち 151 千円）

施設運営の中核を担う保育コーディネーターの育成、連携を図る研修を行った。

（内容）保育コーディネーターの役割、ソーシャルワーク、関係機関との連携

エ　施設長のマネジメント力の強化（うち 33 千円）

施設長を対象とした研修を実施し、マネジメント力の強化を図った。

オ　外部講師を活用した園内研修の充実（うち 391 千円）

県の幼児教育アドバイザー及び大学講師等の外部講師を活用し、各施設の状況に応じた施設研修を実施した。

カ　保育支援アドバイザーによる支援

保育支援アドバイザーが市内の保育施設を巡回し、相談等を行い若手保育士や保育事業者を支援した。

【成果・課題】

「ひがしひろしま乳幼児教育・保育アクションプラン」に基づき、研修内容の見直しや、研修機会の拡充をしたことにより、乳幼児教育・保育の質の向上に対する理解を深めることができた。

引き続き、民間施設も含めたすべての施設に対して、研修機会の拡充を図る必要がある。

事業の概要

② 保育環境の充実（8,216 千円）

ア 子どもの５つの力を育む保育環境づくり

市内の１７施設に対して、保育室及び園庭等の改善による子どもの豊かな体験を生む環境づくりを支援した。

保育施設での環境整備の様子と、完成した砂場で遊ぶ子どもたち

【成果・課題】

子ども主体の保育を念頭に置いた保育室や園庭の環境づくりにより、「ひがしひろしま乳幼児教育・保育アクション」で掲げている目指す乳幼児の姿「とことんあそび　豊かに育つ　こころとからだ」を育む乳幼児教育・保育の実践に繋げることができた。

今後も、子どもの５つの力を育む保育環境づくりを通して、子ども主体の保育をより多くの施設で実践できるよう、水平展開する必要がある。

③ 広島大学との連携推進（Town&Gown）（2,500 千円）

【新】ア 未来を担う子どもの育ちサポート

ひがしひろしま乳幼児教育・保育アクションプランの取組みによる保育の質の変化について、市内の１８施設を対象とした保護者及び保育者アンケートをもとに、大学と連携して研究を行った。

【成果・課題】

教育・保育の質の評価手法の確立に向けた研究を進めることができた。今後は、各施設でこの手法を用いた評価を実施できるよう、評価手法についての理解を深める必要がある。

事業の概要				
戦略	1	乳幼児教育･保育の質の向上（施設における育成支援）	予算　21,413 千円	決算　15,357 千円
事務事業	1-2	幼保小連携推進事業	予算　36 千円	決算　0 千円

内容

1-2_幼稚園、保育所、小学校の連携・接続の推進

① 幼保小連携研修の実施（0 千円）

幼保小の連携した取組みを推進するために、接続を見通したカリキュラムの編成や幼保小の担当者が相互理解を深めるための研修を実施した。

【活動指標】

幼保小連携研修の実施：２回　⇒　１回

【成果・課題】

近隣の園・所等と小学校をマッチングし、小学校の担当者が公開保育に参加する等の取組みを行い、幼保小連携推進の中心的役割を担う担当者の育成を図ることができた。

今後、小学校において、幼児期における「遊びは学び」という考え方を校内全体に浸透させる必要がある。

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	3　高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践
施策の将来の目標像	すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けられ、青少年が将来に夢と希望をもち、主体性と創造性をもった人間として健やかに成長し、活動していくことができる安全・安心な社会環境が整っています。		
施策の数値目標	指標	現状値（Ｈ２９年度）	目標値（Ｒ６年度）
	全国学力・学習状況調査結果における正答率40%未満の児童の割合	11%	9%以下
	全国学力・学習状況調査結果における正答率40%未満の生徒の割合	17%	15%以下

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	①　学校運営の支援と教育内容の充実	主管部局・所属	学校教育部　　指導課
関係部局・所属	学校教育部　教育総務課	学校教育部	学事課
	学校教育部　学校給食センター		

3　目指す姿と戦略

目指す姿	本市の高い教育水準が維持されるとともに、学校業務の抱え込みを解消することが出来る	現状	学校長のマネジメントに支援を要する状況及び伝統による高い教育水準が困難な状況が見られる

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
学校運営・教育内容両面においてデジタル化の推進が必要	学校教育の情報化を活かした未来につながる教育内容の展開	高	1
新しい教育課題に対応するためには、教員の力量形成が不可欠	新たな教育へ対応するための校内研修の充実及び東広島教育の伝統追求	高	2
安全且つ魅力的な施設の観点において計画的施設整備が不可欠	未来的志向での学校施設整備及び長寿命化計画に基づく学校施設の大規模改修	低	3
多様化する教育課題の対応に加え、特色ある教育活動を行うための学校運営を支援する仕組が求められている	特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	低	4

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）		R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	「全国学力・学習状況調査」における正答率40%未満の児童の割合	9	上段：目標値	8.5	8.3	8.0	8.0	%
		（　R1　）	中段：実績値	8.5	12.6		（　R5　）	
		マイナス指標設定	下段：達成率	100.0%	65.9%		63.5%	
(ｲ)	「全国学力・学習状況調査」における正答率40%未満の生徒の割合	17		16.0	15.5	15.0	15.0	%
		（　R1　）		16.4	19.3		（　R5　）	
		マイナス指標設定		97.6%	80.3%		77.7%	
(ｳ)	研修したことが児童生徒の指導に活かされていると回答する教職員の割合	85		86.0	86.5	87.0	87.0	%
		（　R1　）		95.2	90.9		（　R5　）	
				110.7%	105.1%		104.5%	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	決算額	人件費
		一般財源	一般財源	
	R3年度	3,636,667	3,419,002	
		1,402,185	1,765,772	
	R4年度	4,645,756	3,821,436	167,706千円
		2,208,203	2,106,158	

6　戦略を構成する事務事業

（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･2･1及び10･3･1 小･中学校情報機器管理事業	教育総務課	3.50	384,307 376,449	392,561 438,825
1-2	10･1･3 未来の学び推進事業	教育総務課	0.92	19,260 17,581	25,219 24,633
2-1	10･1･3 学校教育推進事業	指導課	2.13	69,818 62,906	23,529 19,314
2-2	10･1･3 外国語教育推進事業	指導課	0.75	107,647 83,240	118,778 97,508
2-3	10･1･3 学校図書館運営事業	指導課	0.50	30,020 29,023	33,196 32,066
2-4	10･2･2及び10･3･2 小･中学校図書整備事業	指導課	0.40	14,813 14,803	14,815 14,800
3-1	10･2･3及び10･3･3 小･中学校施設整備事業	教育総務課	3.40	2,549,781 2,463,582	3,502,647 2,780,786
4-1	10･1･3 学校支援センター運営事業	指導課	4.49	17,198 8,939	27,053 25,193
4-2	10･1･3 学校の元気応援事業	指導課	2.33	67,319 58,466	87,583 69,371
4-3	10･1･3 部活動等支援事業	指導課	0.50	28,556 23,352	32,222 31,159
4-4	10･1･3 小中一貫教育推進事業	指導課	1.50	3,989 1,458	5,710 3,139
4-5	10･1･3 教育交流事業	教育総務課	0.45	2,981 0	2,219 0
4-6	10･2･1及び10･3･1 小･中学校運営事業	学事課	2.20	61,402 53,473	66,382 44,911
4-7	10･2･1及び10･3･1 小･中学校通学支援事業	学事課	0.80	174,701 137,725	210,876 151,852
4-8	10･1･3 学校保健事業	学事課	2.45	103,524 86,886	102,765 87,679
4-9	10･6･3 学校給食センター食育推進事業	学校給食センター	0.30	1,351 1,119	201 200
合計			26.62	3,636,667 3,419,002	4,645,756 3,821,436

7　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	824,320千円	分析	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に伴い、一部事業の運営において、人材確保の難しさや派遣件数の減少が生じたため。

8　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	83.8%	分析	学校のニーズや求められている教員の資質･能力の育成につながる研修を企画、実施することができた。今後、個別最適な学びの視点での授業改善をさらに推進する必要がある。

9　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	社会の要請や学校の要望を把握し、それを基に事業を計画して展開することを通して、学校の教育活動を充実させることができており、事業の取組は適切であった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	経済的かつ効果的な手段で事業を展開することができたが、学校支援センター運営事業においては、学校支援の在り方を検討する余地がある。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、学校教育推進事業において、外部講師や地域の協力者等の学校への派遣件数が目標値に達しなかった。また、教職員の年齢構成の若年化が急速に進み、各学校の教育力の低下が懸念される。

１０　総合評価

総合評価	B	＜総評＞ GIGAスクール構想、学びの変革、学校における働き方改革などを推進することにより、各学校の教育活動や学校運営の充実をより一層図っていく必要がある。また、児童一人一人の成長を保障するための、各校の授業改善の更なる推進を支援する必要がある。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
学校からの、教育活動の充実や授業改善に関する要望に、迅速かつ適切に対応していく必要がある。	→	学校の要望に対応するために、学校運営や教育内容の状況を適切に把握し、学校支援センターの機能強化を図り、支援体制を充実させる必要がある。 そのため、令和5年度から当該事業を指導課が所管し、当該センターを庁舎内に設置しており、これにより、情報を共有しながら学校の支援にあたり、円滑かつ効果的な事業展開に繋げる。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	3　高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	①　学校運営の支援と教育内容の充実

事業の概要				
戦略	1	学校教育の情報化を活かした未来につながる教育内容の展開	予算　417,780 千円	決算　463,458 千円
事務事業	1-1	小・中学校情報機器管理事業	予算　392,561 千円	決算　438,825 千円

内容

1-1_小・中学校情報機器の管理

①　校務・学習用タブレットの整備及び管理（195,881 千円）

②　大型提示装置（電子黒板）の整備及び管理（23,101 千円）

③　情報通信ネットワーク環境の整備及び管理（92,109 千円）

（うちＲ３年度からの繰越分 58,740 千円）

【成果・課題】

情報通信ネットワーク環境について、令和３年度にインターネット回線を、令和４年度に無線ＬＡＮアクセスポイントを増強した。

今後のニーズや技術の変化を踏まえて、情報通信ネットワーク環境整備の計画を見直していく必要がある。

④　統合サーバ・校務支援システムの運用及び管理（77,440 千円）

⑤　家庭学習支援（通信回線・デジタルドリル）の整備及び管理

（14,544 千円）

【成果・課題】

家庭学習支援として、コロナ禍における学習保障の目的で整備した貸出用モバイルルータやデジタルドリルを令和４年度も継続した。

現在は、市が通信料等を負担することとしているが、今後の費用負担等については検討の必要がある。

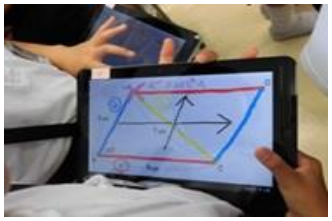
⑥　ＩＣＴ支援員業務（研修・巡回・ヘルプデスク）の委託

（35,750 千円）

【成果・課題】

ネットワーク環境の調査や端末のトラブル対応などの環境整備、校内研修やオンライン授業の支援などを実施した。

人員の配置、人材の確保等について課題がある。



事業の概要				
戦略	1	学校教育の情報化を活かした未来につながる教育内容の展開	予算　417,780 千円	決算　463,458 千円
事務事業	1-2	未来の学び推進事業	予算　25,219 千円	決算　24,633 千円

内容

1-2_未来の学びの推進

① 特定分野のデジタル教材整備（19,325 千円）

電子百科事典、英語及び体育のデジタル教材を導入した。

ア 電子百科事典

令和３年度に導入した電子百科事典を継続し、学校及び家庭での調べ学習に活用した。

【導入対象】市内全小中学校　全学年

イ 外国語科デジタル教材

(ｱ) 小学校児童用教材

ＡＩによるスピーキングパフォーマンステスト機能を有し、教師の負担軽減となる教材を令和３年度に引き続き導入し活用した。

【導入対象】市内全小学校　第５・６学年

(ｲ) 中学校教師用及び生徒用教材

豊富な音声教材や英文例を含み、教師の教材づくりや生徒の個別最適な学びを支援する教材を、令和３年度に引き続き導入し活用した。

【導入対象】市内全中学校　全学年

【拡】ウ 中学校体育科デジタル教材

体つくり運動の手本動画を含み、生徒が自身に必要な練習メニューを把握及び計画できる教材を導入し活用した。

【導入対象】市内全中学校　全学年

【成果・課題】

特定分野のデジタル教材整備により、児童生徒の個別最適な学びを支援する取組みが前進したものの、活用度の差や効果測定の難しさなど、課題も見つかった。

事業の概要

② 大学連携等による授業研究及び実践（3,317 千円）

大学連携等による遠隔授業の研究や青年会議所共催によるＩＣＴ作品コンペ等を行った。

【実績】

大学連携遠隔授業

全９回　延べ５５校、１０９学級、約３，０００人が参加

ＩＣＴ作品コンペ

部門	応募作品数
デジタルアート	１００
プログラミング	１２６
プレゼンテーション	６７０

【成果・課題】

大学連携による遠隔授業は本市独自の特色ある実践となり、教室の壁を越えた協働的な学びの実現につながった。

実施内容の検証・改善を図るとともに、対象校種の拡大（中学校）と内容について検討が必要である。

ＩＣＴ作品コンペは児童生徒のＩＣＴ活用能力向上の一助となったが、様々な作品募集があるため、教職員のとりまとめ業務等を増加させないよう、見直しや募集方法を工夫する必要がある。

【新】③ 特色ある学校教育の広報（1,991 千円）

本市の特色ある教育やＩＣＴを活用した授業等の実践をフリーペーパー、ウェブサイト、動画公告、コミュニティーＦＭラジオといった複数メディアを活用し、積極的に広報した。

【成果・課題】

本市の特色ある教育（小中一貫特認校、一校一和文化学習、大学と連携したオンライン授業、コミュニティ・スクール）を広報することで、市内外の居住者に対して、本市の学校教育の魅力をＰＲすることができた。

今後も継続して本市教育の魅力を発信することが必要である。

事業の概要			
戦略	2　新たな教育へ対応するための校内研修の充実及び東広島教育の伝統追求	予算　190,318 千円	決算　163,688 千円
事務事業	2-1　学校教育推進事業	予算　23,529 千円	決算　19,314 千円

内容

2-1_学校教育の推進

① 市教育推進指定校による研究会の実施（1,407 千円）

小中学校における先進的な教育研究と研究公開を支援し、その研究成果を市内へ普及させた。

【活動指標】

市教育推進指定校による研究会の実施：６校　⇒　６校

（三永小、八本松小、小谷小、乃美尾小、松賀中、豊栄中）

【成果・課題】

教育推進指定校６校の研究成果を市内各小中学校に普及させることができた。

今後、「個別最適な学びと協働的な学び」「ＩＣＴ機器の有効な活用」などの視点に立った先進的な教育研究の支援をすることが必要である。

② 市教育委員会主催研修の実施（484 千円）

全教職員を対象とした研修を実施し、学校教育レベルアッププランに関する内容を周知するとともに、児童生徒がこれからの社会を生きるために重視する資質・能力の育成に必要な専門的な知識を習得させた。

【活動指標】

全教職員研修の実施：３回　⇒　３回

管理職研修の実施　：２回　⇒　２回

【成果・課題】

東広島市立の幼稚園、小中学校教職員を対象とした全教職員研修を、「教科指導」「生徒指導」「特別支援教育」の３回実施し、本市教職員の資質・能力の向上に資することができた。

管理職研修においては、「ＳＤＧｓの推進」「危機管理等への対応」をテーマに、管理職としての資質・能力の向上に資することができた。

今後も、教育現場で求められる内容を吟味し、研修を計画していくことが必要である。

③ 標準学力検査（ＮＲＴ）の実施（5,842 千円）

児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、指導内容や指導方法の改善・充実を図るために、標準学力検査（ＮＲＴ）を実施した。

事業の概要

④　体力向上応援プロジェクトの推進（122 千円）

体育・保健体育の授業改善の取組を推進し、授業の質を向上させることで、児童生徒の運動・スポーツへの意欲を高め、体力の一層の向上を図った。

【活動指標】

体育・保健体育授業力向上研修等の実施：２回　⇒　２回

【成果・課題】

授業観察と協議を通して、各小中学校における体育科、保健体育科の授業改善の充実につなげることができた。

今後も、児童生徒の体力の向上につながる取組みを検討していく必要がある。

【新】⑤　独創教育の推進（109 千円）

東広島教育の源流である独創教育の調査研究等を通して、新しい時代に求められる教育の在り方を検討し、その研究成果を市内へ普及させた。

【活動指標】

プレイベントの開催：１回　⇒　１回

【成果・課題】

独創教育をはじめとしたこれまでの東広島教育の歴史的経過をたどりながら、現在の本市教育へのつながりを明らかにするとともに、これからの新たな本市教育の在り方について考える機会となった。

令和４年度の成果を令和５年度の取組みに効果的につなげ、本市教育のさらなる充実につなげていく必要がある。

事業の概要			
戦略	2　新たな教育へ対応するための校内研修の充実及び東広島教育の伝統追求	予算　190,318 千円	決算　163,688 千円
事務事業	2-2　外国語教育推進事業	予算　118,778 千円	決算　97,508 千円

内容

2-2_外国語教育の推進

① 外国語指導助手の派遣（96,025 千円）

外国語教育の充実を図るために、ＪＥＴプログラムの外国語指導助手（ＡＬＴ）を小中学校に派遣した。

【活動指標】

外国語指導助手（ＡＬＴ）の派遣　　：１９人　⇒　１９人

外国語指導助手（ＡＬＴ）コーディネーターの配置：　１人　⇒　　１人

【成果・課題】

外国語指導助手（ＡＬＴ）を全小中学校へ派遣し、児童生徒の英語学習への意欲向上を図ることができた。

今後も、ＡＬＴや学校と連携し、児童生徒の英語学習への意欲向上を図っていく。

② 外国語指導力向上研修の実施（0 千円）

小中学校における外国語教育の充実及び円滑な接続を推進するために、外国語指導者の指導力を向上する研修を実施した。

【活動指標】

外国語指導力向上研修の実施：１回　⇒　１回

【成果・課題】

学習指導要領の内容を踏まえた小学校外国語科の指導方法等に係る研修を通して、小学校教員の指導力の向上を図ることができた。

今後も、内容を精選して効果的な研修の計画を立てていく。

③ 英検ＩＢＡの実施（1,483 千円）

生徒の英語力の把握及び教員の指導方法の改善につなげるために、中学校第２・３学年全ての生徒を対象に英検ＩＢＡを実施した。

【活動指標】

英検ＩＢＡの実施：年１回　⇒　年１回

【成果・課題】

中学校２・３学年全ての生徒対象に英検ＩＢＡ（英語のリスニングとリーディングの能力を把握するための検査）の受検を実施し、生徒の英語力の把握をすることができた。英検ＩＢＡの結果をもとに、教員の指導方法の改善につなげていく必要がある。

今後も、継続してこの取組みを進めていく。

事業の概要			
戦略	2　新たな教育へ対応するための校内研修の充実及び東広島教育の伝統追求	予算　190,318 千円	決算　163,688 千円
事務事業	2-3　学校図書館運営事業	予算　33,196 千円	決算　32,066 千円

内容

2-3_学校図書館運営の推進

【拡】①　学校司書の配置（28,201 千円）

学校図書館の整備や学校図書館を活用した教育の充実を図るために、小中学校に専門的知識を有する学校司書を配置した。

【活動指標】

学校司書の配置：小学校：３２校１４人　⇒　３２校１４人

中学校：１４校１４人　⇒　１４校１４人

※　配置率：１．６４校に１人（国の基準１．３校に１人）

小学校の学校司書数

	Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５（予定）
学校司書数	９人	１１人	１１人	１４人	１７人
１人当たりの校数	３～４校	３～４校	３校	２～３校	１～２校

中学校の学校司書数

	Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５（予定）
学校司書数	１４人	１４人	１４人	１４人	１４人
配置校	全校配置（もみじ小・中学校を除く。）				

【成果・課題】

専門的知識を有する学校司書を配置することで、学校図書館の整備や学校図書館を活用した教育の充実を図ることができた。

今後は、更なる充実のために、国の配置目標の１．３校に１人の配置を目指し、学校司書の増員を行う必要がある。

②　学校図書館システムの管理運営（3,865 千円）

システム保守業務の委託等を通して、もみじ小中学校を除く全小中学校に配備している学校図書館システム探調ＴＯＯＬの円滑な運用を図った。

【活動指標】

学校図書館システム探調ＴＯＯＬの運営：４６校　⇒　４６校

【成果・課題】

システム保守業務の委託等を通して、もみじ小中学校を除く全小中学校に配備している学校図書館システム探調ＴＯＯＬの円滑な運用を図ることができた。

児童数が多い大規模校においては、探調ＴＯＯＬをインストールしたパソコンが学校に１台ではスムーズな貸し借りの処理が行えない学校がある。そのような学校では、複数台配置に向けて検討していく必要がある。

事業の概要			
戦略	2　新たな教育へ対応するための校内研修の充実及び東広島教育の伝統追求	予算　190,318 千円	決算　163,688 千円
事務事業	2-4　小・中学校図書整備事業	予算　14,815 千円	決算　14,800 千円

内容

2-4_小・中学校の図書整備

① 小・中学校の図書の購入（14,800 千円）

小・中学校図書館の蔵書の充実を図ることにより、児童生徒の読書意欲を喚起し、読書活動の活性化を図った。

【活動指標】

図書の購入：小学校　４，６８０冊　⇒　５，３８４冊

中学校　２，７５０冊　⇒　３，３８６冊

※購入予定冊数は、学校図書館用図書平均単価（公益社団法人全国学校図書館協議会）により算出している。

【成果・課題】

各学校の実態に応じて図書を購入し、小中学校図書館の蔵書の充実につとめ、児童生徒の読書意欲を喚起し読書活動の活性化につなげることができた。

学校図書館に配備すべき標準冊数に対する本市小中学校の蔵書冊数小学校８９．４％、中学校８３．７％となっており引き続き蔵書数を増やしていく必要がある。

事業の概要			
戦略	3　未来的志向での学校施設整備及び長寿命化計画に基づく学校施設の大規模改修	予算　3,502,647 千円	決算　2,780,786 千円
事務事業	3-1　小・中学校施設整備事業	予算　3,502,647 千円	決算　2,780,786 千円

内容

3-1_小・中学校の施設整備等

【新】①　西条小学校増築等工事実施設計業務（29,302 千円）

狭隘化している職員室、図書室等への対応及び仮設教室の解消に向けて設計を行った。

	R4	R5	R6	R7	工事概要
設計業務					概算総事業費：約 11.8 億円
工　　事					Ｒ４事業内容：設計業務

②　川上小学校長寿命化改良設計業務（34,980 千円）

普通教室の不足、３５人学級への対応、多様な学習形態の確保等も含め、将来の各諸室の配置計画を見据えた長寿命化改良工事及び増築工事の設計に着手した。

	R4	R5	R6	R7	工事概要
設計業務					概算総事業費：約 52.2 億円
工　　事					Ｒ４事業内容：設計業務

③　西条中学校長寿命化改良工事（997,845 千円）

施設の老朽化や多様な学習形態に対応するため、長寿命化改良工事に着手した。

	R3	R4	R5	R6	工事概要
設計業務					概算総事業費：約 25.2 億円 Ｒ４事業内容：長寿命化改良設計・工事
工　　事					

④　東西条小学校長寿命化改良工事（723,577 千円）

施設の老朽化、多様な学習形態、児童数の増加に対応するため、長寿命化改良工事及び増築工事に着手した。

	R3	R4	R5	R6	工事概要
設計業務					概算総事業費：約 23 億円 R4 事業内容：長寿命化改良設計・工事
工　　事					

内容

⑤　川上小学校グラウンド造成工事（81,000 千円）

児童数の増加に伴い、グラウンドの必要面積が不足していることから、隣接地に新たなグラウンドを築造する。

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	工事概要
実施設計							概算総事業費：約 5.5 億円
工　　事							Ｒ４事業内容：造成工事

⑥　河内小中学校進入路拡張工事（49,086 千円）

河内小学校の河内中学校敷地内への移転に伴い、河内小中学校の入り口の道路拡張工事を実施し、スクールバス等の車両の通行ができるよう道路の拡張工事に着手した。

	R1	R2	R3	R4	R5	工事概要
設　　計						概算総事業費：約 1.4 億円（設計費別）
工　　事						Ｒ４事業内容：進入路拡幅工事

【新】⑦　志和中学校テニスコート整備設計（9,694 千円）

従前のテニスコートに小学校棟を建設したため、隣接地にある志和生涯学習センター跡地に、テニスコートを整備するための設計を行った。

	R4	R5	工事概要
設　　計			概算総事業費：約 1.6 億円 Ｒ４事業内容：テニスコート及び屋外照明設計
工　　事			

【新】⑧　小中学校特別教室等空調設置工事（リース事業）（142,811 千円）

各小中学校の特別教室等に空調設備を設置した。

⑨その他

ア　バリアフリー対策としてのエレベータを設置（163,618 千円）

- 松賀中学校エレベータ設置工事

イ　空調ＰＦＩ事業（保守管理）（71,131 千円）

ウ　安芸津中学校屋内運動場空調設備運営事業（ＥＳＣＯ事業）（9,993 千円）

エ　個別改修等（467,749 千円）

- 豊栄小学校プール改築工事
- 八本松小学校屋外便所新築工事
- 受変電設備改修工事（御薗宇小、板城西小、乃美尾小）
- 寺西小学校屋内体育館屋根改修工事
- 豊栄小学校屋根防水改修設計及び工事
- 御薗宇小学校公共下水道接続工事
- トイレ洋便器化事業など

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-1　学校支援センター運営事業	予算　27,053 千円	決算　25,193 千円

内容

4-1_学校運営の支援と教育内容の充実

【新】①　学校支援センターの設置（25,193 千円）

スクールサポートセンターを改組し、スクールサポーター（退職教員）による支援（教科指導、学校経営、学校環境、部活動）に加え、若手教員に対する伴走型支援、教職員による自主研修サークルの立ち上げ支援を行った。

また、教員に対してのＩＣＴを活用した研修メニューを開発し、オンデマンド型の研修システムの構築に向けた準備を進めた。

・　設置場所　児童青少年センター内
・　運営体制　センター長１人、職員４人（退職教員）、事務職員１人

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-2　学校の元気応援事業	予算　87,583 千円	決算　69,371 千円

内容

4-2_学校の特色ある教育活動の応援

① 特色ある学校づくりの支援（6,852 千円）

現状からさらに高みをめざす自主的・主体的な取組みや地域に貢献しようとする児童生徒を育成する取組みなど、特色ある学校づくりを支援した。

【活動指標】

校内研修における講師の派遣　　：６１回　⇒　　４６回
一校一和文化学習等における講師の派遣：８０回　⇒　１２９回
マイタウンティーチャー（学生を含む。）の派遣
　　：１，５６０回　⇒　１，２６４回

【成果・課題】

校内研修や一校一和文化学習などを通して、授業改善や地域貢献につながる学習を進めることができ、特色ある学校づくりを推進することができた。

今後も、学校が必要としていることを把握することに努め、特色ある学校づくりを推進していく。

② 学校経営のアドバイス（10,420 千円）

学校経営や優れた教科指導、生徒指導、部活動指導の力量や経験を有する退職管理職を学校経営アドバイザーとして派遣した。

【活動指標】

学校経営アドバイザーの派遣：３２０回（４人）　⇒　２８６回（４人）

【成果・課題】

学校経営アドバイザー主任１人を指導課に、学校経営アドバイザー３人を学校に配置した。学校の要請や必要に応じて派遣することにより、校長や教職員に対して指導助言を行い、安定した学校経営の推進や教職員の指導力の向上につながった。

学校のニーズを捉え、学校経営アドバイザーの強みを生かした迅速かつ効果的な派遣を行うための連携の在り方について検討する必要がある。

事業の概要

【拡】③　教科等指導支援員の配置（15,286 千円）

授業時数を軽減するためや特別支援学級における教科指導に対応するために、学習指導ができる教科等指導支援員を配置した。

【活動指標】

教科等指導支援員の配置：８校８人（Ｒ３年度：７校７人）　⇒６校６人

教科等指導支援員数及び配置校

Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
６人	７人	７人	６人
西条中 八本松中 黒瀬中 安芸津中 中央中 川上小	西条中 向陽中 高屋中 志和中 豊栄中 安芸津中 中央中	西条中 向陽中 八本松中 黒瀬中 豊栄中 安芸津中 中央中	西条中 向陽中 八本松中 黒瀬中 豊栄中 中央中

【成果・課題】

教科等指導支援員の配置を通して、教科等における課題や特別支援学級における教科指導に対応することができた。

学習指導は教員免許が必要であり、人材が不足しており、今後も継続して人材の確保に取り組む必要がある。

④　中学校音楽会の開催（968 千円）

音楽会を通して、生徒相互の交流を深めるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、音楽を愛好する心情や態度を育成することができた。

⑤　小学校陸上・水泳記録会の開催（1,721 千円）

陸上記録会・水泳記録会を通して、児童相互の交流を深めるとともに、運動への意欲を高め、運動能力の向上につなげた。

事業の概要

【拡】⑥　学校運営協議会の推進（34,002 千円）

ア　学校運営協議会委員の配置（689 千円）

学校が地域とともによりよい学校運営を実施するため学校運営協議会を設置し、委員を配置した。

【活動指標】

学校運営協議会委員の任用：２０協議会３００人 ⇒ ２０協議会１８６人

学校運営協議会設置状況

Ｈ３０	Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
１協議会	１協議会	８協議会	１１協議会	２０協議会
風早小	風早小	風早小 高美が丘小・中 福富中 八本松小 小谷小 御薗宇小 上黒瀬小 龍王小	風早小 高美が丘小・中 福富小・中 八本松小 小谷小 御薗宇小 上黒瀬小 龍王小 志和中 河内中 寺西小	風早小 高美が丘小・中 福富小・中 八本松小 小谷小 御薗宇小 上黒瀬小 龍王小 志和小・中 河内小・中、入野小 寺西小 三永小 高屋東小 吉川小 郷田小 板城小 板城西小 乃美尾小 木谷小 三津小

※　令和６年度に全ての小中学校に学校運営協議会を設置する予定

【成果・課題】

令和４年度は、学校運営協議会を新たに１１校設置し、計２０協議会２５校（小学校：２１校、中学校：４校）となった。

今後、令和６年度の全小中学校への導入に向けて、計画的に準備を進めていく必要がある。

事業の概要

イ　コミュニティ・スクール推進員の配置（33,313千円）

学校運営協議会に係る連絡調整や地域学校協働活動推進員との連携など、学校運営の支援を図るためコミュニティ・スクール推進員を配置した。

【活動指標】

コミュニティ・スクール推進員の配置：２０協議会２０人

（Ｒ３年度：１１協議会１１人）⇒２０協議会１８人

コミュニティ・スクール推進員の業務内容及び特徴的な実績

業務内容	特徴的な実績
・コミュニティ・スクール推進に係わる業務 ・地域学校協働活動の推進に係わる業務 ・地域学校協働活動推進員との連携業務 ・校長が求める学校運営に係る業務	・学校及び地域との連絡会議の実施 ・地域教材を活用した学習の連絡調整等 ・広報紙発行、掲示作成 ・学習支援 ・住民自治協議会役員会の出席

【成果・課題】

令和４年度はコミュニティ・スクール推進員を１８人（継続６人、新規１２人）配置した。

今後、学校運営協議会の増加に伴い、人員の確保に取り組む必要がある。

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-3　部活動等支援事業	予算　32,222 千円	決算　31,159 千円

内容

4-3_部活動等への支援

① 大会や団体への負担金及び補助金の支援（3,446 千円）

中学校体育連盟への加盟金を負担した。また、市内で実施される中国中学校駅伝競走大会や小学生体育連盟の事業に対して補助した。

② 児童・生徒の大会への派遣費の補助（24,024 千円）

中学校体育連盟及び中学校文化部連盟主催の大会等への生徒の参加に係る保護者への負担軽減を図るために、派遣費を補助した。

また、全国大会へ出場する小学校に派遣費を補助した。

【拡】③ 部活動指導員の配置（3,689 千円）

部活動を担当する教員の負担軽減を図り、部活動の適正な実施を推進するために、部活動指導員を配置した。

【活動指標】

部活動指導員の配置：８校８人　⇒　８校８人

令和３年度配置状況

学校名（4校）	種目名	人数	
向陽中	ソフトテニス	1	継続
八本松中	陸上競技	1	継続
黒瀬中	軟式野球	1	継続
磯松中	バレーボール（女子）	1	継続

令和４年度配置状況

学校名（8校）	種目名	人数	
向陽中	ソフトテニス	1	継続
八本松中	陸上競技	1	継続
黒瀬中	軟式野球	1	継続
磯松中	バレーボール（女子）	1	継続
中央中	美術	1	新規
西条中	柔道	1	新規
松賀中	柔道	1	新規
高美が丘中	野球	1	新規

【成果・課題】

部活動指導員配置校において、「子どもと向き合う時間が確保できている」と回答した教職員の割合は、８８．２％であった。また、部活動指導員が、大会への引率や休日の指導を行うことで教員の負担を軽減することができた。

部活動指導員を必要とする種目や学校の全てに配置できていないため、今後、部活動指導員の配置を計画的に拡充していく必要がある。

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-4　小中一貫教育推進事業	予算　5,710 千円	決算　3,139 千円

内容

4-4_小中一貫教育の推進

① 福富地域（293 千円）

地域や大学等と連携したアントレプレナーシップ教育に繋がる探究的な学びを充実させ、特色ある教育課程の実施を支援し、小中一貫教育の推進を図った。

② 志和地域（2,529 千円）

近畿大学や地域の専門家と連携を進め、ｅＳＴＥＡＭ教育など特色ある教育課程の実施を支援し、小中一貫教育の推進を図った。

③ 河内地域（317 千円）

令和４年度において、河内小学校、河内中学校は、施設一体型小中一貫校としてスタートした。学校運営協議会を共同で設置する入野小学校とともに、広島空港、大学と連携を進め、地域創生プロジェクトや遠隔授業など特色ある教育課程の実施を支援し、小中一貫教育の推進を図った。

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-5　教育交流事業	予算　2,219 千円	決算　0 千円

内容

4-5_教育交流の推進

① 北海道北広島市及び中国四川省徳陽市との交流活動実施（0 千円）

姉妹都市北海道北広島市及び友好都市中国四川省徳陽市との教育交流は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、派遣・受入は中止した。

北広島市とは、オンラインにより、お互いの学校や地域の紹介を行い、児童生徒間交流を行った。また、お互いの郷土料理のレシピ交換を行い、全小中学校の給食で提供して、食の交流を行った。

今後は、より効果的のある交流内容への見直しを図りながら、引き続き行う。

北広島市とのオンライン交流
（地域や学校の紹介、姉妹校へ質問する様子）

【成果・課題】

児童生徒の姉妹都市への理解が深まったと回答した交流校の割合
：１００％（実施後の学校アンケートより）

オンライン交流は、対象学校の児童会・生徒会単位で行った学校と学年全体で交流を行った学校とがあり、運営方法が統一されていない。

以前から学校全体への教育交流の効果の波及が課題となっているため、前年度までのオンライン交流の様子を事前に学校に周知し、より北広島市との相互理解が深まるよう、交流方法を検討する必要がある。

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-6　小・中学校運営事業	予算　66,382 千円	決算　44,911 千円

内容

4-6_小・中学校運営の支援

① 学校運営体制の支援

【小学校への配置数】 看護師２人、学校事務職３人、養護講師２人

【中学校への配置数】 講師７人、学校事務職３人

② 関係団体への負担金及び補助金

【負担金】

・広島県連合小学校長会
・広島県公立学校校長会連合会
・広島県公立中学校長会
・広島県公立小・中学校事務長会
・広島県小学校教育研究会
・広島県中学校教育研究会

【補助金】

・東広島市小学校教頭会
・東広島市中学校教頭会
・東広島市立学校教育研究会

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-7　小・中学校通学支援事業	予算　210,876 千円	決算　151,852 千円

内容

4-7_小・中学生への通学支援

【拡】①　小学校の通学支援（スクールバス・スクールタクシー運行）

（うち 127,894 千円）

志和小学校の開校、及び河内小学校の移転に伴う通学支援

【成果・課題】

志和地域では、志和小学校開校に伴う新たな５路線を加えた計６路線、また河内地域では、河内小学校の移転に伴う新たな１路線を加えた計３路線でスクールバスを運行した。

東広島市スクールバス運行マニュアルを基に、スクールバス等の安全・安心な運行を図るとともに、乗降車時の点呼等による所在確認の方法について、学校や運行事業者と継続的に連携している。

【対象小学校区】

板城小、志和小、中黒瀬小、福富小、豊栄小、河内小、入野小、風早小

②　遠距離通学児童生徒の通学費補助（うち 3,602 千円）

【小学校】川上小、中黒瀬小

【中学校】高屋中、河内中

③　中学校の通学支援（スクールバス運行）（うち 17,232 千円）

【対象中学校区】高屋中

④　自転車通学生徒ヘルメット購入費の補助（うち 2,296 千円）

【対象者】市内全中学校生徒（１，１７３人分）

【補助率】７割

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入促進	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-8　学校保健事業	予算　102,765 千円	決算　87,679 千円

内容

4-8_学校保健の推進

① 各種健康診断及び各種学校環境衛生検査の実施（70,543 千円）

【健康診断実施内容】

・児童生徒等の健康診断
（内科検診、歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診、結核検診、尿検査、心音心電図検査）
・就学時の健康診断
・教職員の健康診断、ストレスチェック

【学校環境衛生検査実施内容】

・空気中の化学物質濃度検査
・プール水及び飲料水水質検査
・教室等の環境検査

② 各種保険等への加入及び関係団体への補助金交付、研修等参加助成（17,136 千円）

【加入保険】

・日本スポーツ振興センター災害共済
・全国市長会学校災害賠償補償保険

【負担金】

・日本スポーツ振興センター
・広島県学校保健会
・衛生推進者・管理者等養成講習会参加費

【補助金】

・東広島市学校保健会

事業の概要			
戦略	4　特色ある教育活動に対する力強いサポートと、学校教育への地域の教育力導入	予算　535,011 千円	決算　413,504 千円
事務事業	4-9　学校給食センター食育推進事業	予算　201 千円	決算　200 千円

内容

4-9_学校給食センターの食育推進

①　栄養教諭が各小中学校で実施する食育指導（50 千円）

【実施内容】児童生徒を対象とした小中学校での食に関する指導

【実施時期】通年

【実施回数】３４６回（小学校３１３回、中学校３３回）

小学校での食に関する指導の様子

②　食をテーマとしたイベントの実施（150 千円）

学校給食に対する理解と関心を高め、地域と連携した食育推進を図るため、新型コロナウイルスまん延防止対策を施した上で、３年ぶりに施設開放イベントを開催した。

【入場者数】１０２人

施設開放イベントの様子

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	3　高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践
施策の将来の目標像	すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けられ、青少年が将来に夢と希望をもち、主体性と創造性をもった人間として健やかに成長し、活動していくことができる安全・安心な社会環境が整っています。		
施策の数値目標	指標	現状値（Ｈ２９年度）	目標値（Ｒ６年度）
	全国学力・学習状況調査結果における正答率40％未満の児童の割合	11%	9%以下
	全国学力・学習状況調査結果における正答率40％未満の生徒の割合	17%	15%以下

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	②　特別なニーズに対応した教育の充実	主管部局・所属	学校教育部　　指導課
関係部局・所属	学校教育部　　教育総務課	学校教育部	学事課

3　目指す姿と戦略

目指す姿	障害の有無、国籍、家庭の経済事情等に関わらず、全ての子どもが、夢に向かって自己実現できる教育環境が整う。	現状	現代的課題は増加し、学びのセーフティネット構築の必要性が学校教育、社会教育両面で益々求められている。

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
特別支援教育の専門的な知識及び教育力が不足し、切れ目ない支援体制構築が求められている	特別な支援を要する児童生徒への教育推進	高	1
日本語指導体制の整備が十分とは言えず、子どもや保護者の困り感への対応が必要な状況である	外国につながる児童生徒への教育推進	中	2
経済的な理由により子どもの可能性を伸ばす日常的な学びが保障されていない状況が見られる	学校教育における学力保障、福祉関係機関等との連携強化	低	3

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）	目標値及び実績値	R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	特別支援学級に在籍する児童生徒保護者の教育活動に対する肯定的回答の割合	75 （　R1　）		77.0	79.0	80.0	80.0	%
				75	100		（　R5　）	
				97.4%	126.6%		125.0%	
(ｲ)	「学校は多様なニーズに対して適切に対応している」と回答した保護者の割合	75 （　R1　）	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	76.0	76.5	80.0	80.0	%
				78	78		（　R5　）	
				102.6%	102.0%		97.5%	
(ｳ)		（　　）						
							（　　）	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	一般財源	決算額	一般財源	人件費
	R　年 3　度	555,552	549,102	490,649	484,288	
	R　年 4　度	586,869	577,950	511,117	503,637	21,105千円

6　戦略を構成する事務事業　　（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･1･3 特別支援教育推進事業	指導課	0.60	8,048 6,660	10,027 7,817
1-2	10･2･2及び10･3･2 小･中学校教育支援者配置事業	指導課	0.85	342,201 302,797	364,765 327,602
2-1	10･1･3 外国につながる児童生徒への教育推進事業	指導課	0.40	7,110 4,122	7,243 6,686
3-1	10･2･2及び10･3･2 小･中学校就学支援事業	学事課	1.40	195,957 174,900	199,536 164,789
3-2	10･1･3 私立学校等助成事業	教育総務課	0.10	2,236 2,170	5,298 4,223
合計			3.35	555,552 490,649	586,869 511,117

7　R４事業費の分析（差額＝「R４年度当初予算額」－「R４年度決算額」）　※決算額には繰越を含む。

差額	75,752千円	分析	教育補助員の配置において、「学校の要望に合う人材を見つけることができなかった」、「年度途中での退職があった」等の理由により、定員を満たすことができなかったため。

8　R４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	114.3%	分析	配置人数を満たすことはできなかったが、特別なニーズに対応した教育を提供したことにより、目標を達成することができた。

9　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	特別な支援を要する児童生徒や外国につながる児童生徒のニーズを把握することを通して、必要な支援を行うことができた。支援の対象や手段は適切であった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	児童生徒の実態や各学校からの配置希望等を基に、適切に教育支援者の配置を行っている。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染症による影響があったが、年度途中で、入国制限が緩和され、昨年度よりも多くの外国につながる児童生徒が日本語を学び、学校に編入することができた。また、特別支援教育一般及び学生サポーターの数も増加した。

10　総合評価

総合評価	A	＜総評＞ 各学校や児童生徒の実態を踏まえ、特別支援教育や日本語教育に係る支援者の配置、指導力向上を図るための研修等を実施したことにより、特別なニーズに対応した教育を展開することができた。

11　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
特別な支援を要する児童生徒や外国につながる児童生徒が増加傾向にあり、多様なニーズに対応するため、支援体制の充実を図る必要がある。	→	特別なニーズに対応するために、児童生徒や保護者の状況を適切に把握し、効果的な支援体制や関係機関との連携体制を構築する。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
３　人づくり	３　高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	②　特別なニーズに対応した教育の充実

事業の概要			
戦略	1　特別な支援を要する児童生徒への教育推進	予算　374,792 千円	決算　335,419 千円
事務事業	1-1　特別支援教育推進事業	予算　10,027 千円	決算　7,817 千円

内容

1-1_特別支援教育の推進

①　特別支援教育に係る支援者の派遣（4,548 千円）

ア　特別支援教育サポーター及び特別支援教育大学生サポーターの派遣

（うち 4,485 千円）

通常の学級や特別支援学級に在籍する発達障害のある児童生徒の学習支援等を行うために、特別支援教育サポーター及び特別支援教育大学生サポーターを派遣した。

【活動指標】

特別支援教育サポーターの派遣：３，７００時間　⇒　２，７７８時間

特別支援教育大学生サポーターの派遣

：２，４００時間　⇒　１，５６０時間

【成果・課題】

特別支援教育サポーター等を派遣した学校においては、通常の学級や特別支援学級に在籍する発達障害のある児童生徒の学習支援等を行うことができた。

サポーターを確保できず派遣時間を達成できなかったため、今後も、サポーターの確保に努める必要がある。

イ　手話通訳者等の派遣（うち 63 千円）

学校からの情報を確実に保護者に対して提供するために、手話通訳者及び要約筆記者を派遣した。

【活動指標】

手話通訳者及び要約筆記者の派遣：１００回　⇒　２０回

【成果・課題】

手話通訳及び要約筆記を必要とする保護者のニーズに応え、学校が教育に係る情報を正しく発信することで、保護者の信頼を得ることができた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、参観日等の学校行事が制限され、派遣回数が想定より下回った。

事業の概要

② 巡回相談の実施（136 千円）

発達障害のある児童生徒の理解と指導や支援の向上を図るために、特別支援教育の専門家による巡回相談を実施した。

【活動指標】

巡回相談員の派遣：２０回 ⇒ １７回

【成果・課題】

【成果・課題】

巡回相談の実施により、発達障害のある児童生徒の理解及び指導や支援の向上を図ることができた。

今後は、相談員の確保に努めるとともに、助言を効果的に支援に結び付けることができる校内体制をつくることが必要である。

③ 特別支援教育に係る会議等の開催（168 千円）

ア 教育支援委員会の開催（うち 143 千円）

障害のある幼児児童生徒に対し、その能力及び特性に応じた適切な教育を行うために、教育支援委員会を設置し開催した。

【活動指標】

教育支援委員会の開催：５回 ⇒ ５回

【成果・課題】

障害のある幼児児童生徒の実態をもとに、教育支援委員会を開催することで、慎重な審議を行い、適正な就学指導を行うことができた。

今後も、継続して、迅速かつ丁寧に就学指導を行うことが必要である。

イ 特別支援教育担当者研修の実施（うち 25 千円）

特別支援教育の専門性を高め、指導力を向上させるために、特別支援教育担当者を対象とした研修を実施した。

【活動指標】

特別支援教育担当者研修の実施：３回 ⇒ ３回

【成果・課題】

特別支援教育担当者を対象とした研修を実施し、担当者の専門性を高め、指導力を向上させることができた。

今後も、広島大学等と連携をし、継続して実施する必要がある。

事業の概要

④　特別支援教育相談員の配置（2,699 千円）

障害のある幼児児童生徒の教育相談及び教育支援委員会に係る業務を充実させるために、特別支援教育相談員を配置した。

【活動指標】

特別支援教育相談員の配置：１人　⇒　１人

【成果・課題】

特別支援教育相談員の配置により、障害のある幼児児童生徒の教育相談及び教育支援委員会による就学指導を充実させることができた。

今後は、通級指導教室への巡回相談を、拡大して実施することが必要である。

⑤　特別支援教材教具制作の支援（266 千円）

特別支援学級の学習活動の充実を図るために、教材や教具の開発等に向けた取組みへの支援を実施した。

【活動指標】

特別支援学級への教材教具制作の支援：１３５学級　⇒　１２７学級

（１３５学級で予算を確保したが、令和４年度は１２７学級であった。）

【成果・課題】

全ての特別支援学級に教材教具制作の支援を行うことができ、学習活動の充実につなげることができた。

今後も、学級数の増加が見込まれるので、特別支援学級の学習活動の充実を図るために、教材教具制作の支援を継続する必要がある。

事業の概要				
戦略	1	特別な支援を要する児童生徒への教育推進	予算　374,792 千円	決算　335,419 千円
事務事業	1-2	小・中学校教育支援者配置事業	予算　364,765 千円	決算　327,602 千円

内容

1-2_小・中学校教育支援者の配置

【拡】①　教育補助員の配置（224,506 千円）

特別支援学級に在籍する児童生徒の学習や生活の支援を行い、特別支援学級の円滑な運営を図るために、教育補助員を配置した。

【活動指標】

教育補助員の配置：小学校２５校６７人　⇒　２１校６６人
　　中学校１０校２８人　⇒　１０校２８人

教育補助員の配置実績

小学校	配置校数	補助員数
Ｒ３	２３	６１
Ｒ４	２１	６６

中学校	配置校数	補助員数
Ｒ３	９	２５
Ｒ４	１０	２８

令和５年３月３１日現在

特別支援学級数と在籍者数

小学校	学級数	在籍者数
Ｒ１	７３	２４９
Ｒ２	７９	２９０
Ｒ３	８７	３６６
Ｒ４	９３	４３４

中学校	学級数	在籍者数
Ｒ１	２９	９８
Ｒ２	３０	９１
Ｒ３	３４	１０２
Ｒ４	４０	１５９

【成果・課題】

教育補助員の配置により特別支援学級に在籍する児童生徒の学習や生活の支援を行うことができた。

配置については、小学校において年度途中に定員を満たしていない状況があったが、公募をし、定員を満たすことができた。

今後も、継続して人材の確保に努める必要がある。

事業の概要

【拡】②　学校教育支援員の配置（103,096 千円）

通常の学級に在籍する児童生徒の多様な課題に対応するために、教職員を補助することのできる学校教育支援員を配置した。

【活動指標】

学校教育支援員の配置：小学校３０校３０人（Ｒ３年度：３０校３０人）
⇒　２８校３０人
中学校１０校１３人（Ｒ３年度：１０校１２人）
⇒　１０校１３人

学校教育支援員の配置実績

小学校	配置校数	支援員数
Ｒ３	３０	３０
Ｒ４	２８	３０

中学校	配置校数	支援員数
Ｒ３	１０	１２
Ｒ４	１０	１３

令和５年３月３１日現在

通常の学級における支援が必要な児童数

小学校	要望校数	要望人数
Ｒ１	３０	２０６
Ｒ２	３０	１９０
Ｒ３	３１	２５７
Ｒ４	３１	２４３

中学校	要望校数	要望人数
Ｒ１	９	２９
Ｒ２	１０	３５
Ｒ３	１０	３８
Ｒ４	１１	５６

【成果・課題】

学校教育支援員の配置によって、通常の学級に在籍する児童生徒の多様な課題に対応することができた。

配置については、年度途中に定員を満たしてない状況があったが、公募をし、定員を満たすことができた。

今後も、継続して人材の確保に努める必要がある。

事業の概要				
戦略	2	外国につながる児童生徒への教育推進	予算　7,243 千円	決算　6,686 千円
事務事業	2-1	外国につながる児童生徒への教育推進事業	予算　7,243 千円	決算　6,686 千円

内容

2-1_外国につながる児童生徒への教育推進

① 日本語指導拠点校の設置（2,618 千円）

日本語指導に係る研究を推進するとともに、研究成果を市内に普及するために、日本語指導拠点校を設置した。

【活動指標】

日本語指導拠点校の設置：１校（Ｒ３年度：龍王小学校）

⇒　１校（龍王小学校）

【成果・課題】

日本語指導拠点校としての研究成果等を日本語指導担当者研修で報告し、市内小中学校に普及した。

また、日本語指導連絡協議会を設け、広島大学と連携し、外国人児童生徒等に係る情報共有及び日本語指導に関する課題等について協議することで、日本語指導教育の充実に繋げることができた。

今後は、新たな拠点校を設置し、日本語指導に係る研究を推進していく必要がある。

② 日本語初期指導教室の設置（3,742 千円）

来日して間もない児童生徒に学校生活や日本語に係る指導を行い、学校への早期適応を図るために、日本語初期指導教室を設置した。

【活動指標】

日本語初期指導教室指導員の派遣：１，９２０時間

⇒　２，２１０時間

【成果・課題】

令和４年度は、初期指導教室で４９人の児童生徒が日本語を学び、学校へ編入することができた。

今後は、日本語指導が必要な全ての児童生徒が日本語初期指導を受けられるよう、派遣型教室の運営について検討する必要がある。

事業の概要

③　通訳者・支援員の派遣（326 千円）

日本語の理解が十分でない児童生徒や保護者に対し、学校生活への適応や教育環境の充実の支援のために、通訳者や支援員を派遣した。

【活動指標】

通訳者・支援員の派遣：１８０時間　⇒　１８４時間

【成果・課題】

懇談会や急な生徒指導に関わる事案等にも対応して通訳派遣を行うことで、日本語の理解が十分ではない保護者に対して、児童生徒の学校生活での様子を正確に伝えることができた。

今後も、通訳者や支援員の確保に努める必要がある。

④　日本語指導教育研修の実施（0 千円）

外国につながる児童生徒への理解や日本語指導の指導力の向上を図るために、日本語指導学級や該当児童生徒の学級担任を対象に研修を実施した。

【活動指標】

日本語指導教育研修の実施：１回　⇒　１回

【成果・課題】

日本語指導学級担当者等を対象に研修を実施し、外国につながる児童生徒への理解や日本語指導の指導力の向上を図ることができた。

また、受講対象者として日本語指導学級設置校管理職、市長部局担当者、広島大学関係者を加えることで、外国につながる児童生徒への共通理解を図ることができた。

今後は、更に対象を広げて、日本語指導教育の充実を図る必要がある。

事業の概要			
戦略	3　学校教育における学力保障、福祉関係機関等との連携強化	予算　204,834 千円	決算　169,012 千円
事務事業	3-1　小・中学校就学支援事業	予算　199,536 千円	決算　164,789 千円

内容

3-1_小・中学校の就学支援

① 経済的理由により就学が困難と認められる児童・生徒の保護者への学用品費等の支給

② 特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者への学用品費等の支給

事業の概要			
戦略	3 学校教育における学力保障、福祉関係機関等との連携強化	予算 204,834 千円	決算 169,012 千円
事務事業	3-2 私立学校等助成事業	予算 5,298 千円	決算 4,223 千円

内容

3-2_私立学校等への助成

① 賀茂高等学校定時制後援会への補助金交付（165 千円）

【補助内容】

講演会の開催、部活動全国大会遠征等に要する経費

② 近畿大学附属広島高等学校東広島校及び呉武田学園武田高等学校への補助金交付（1,808 千円）

【補助内容】

教材費、教育研究用機器などの購入に要する経費

【新】③ 賀茂北高等学校の活性化に係る補助金交付（2,250 千円）

県央の進学先である賀茂北高等学校の魅力向上への支援として、地域が運営する生徒の自学自習の場への資格取得に係る講師の派遣等に要する費用に、補助金を交付した。

【成果・課題】

当該補助金の交付は、生徒数の減少により広島県教育委員会において統廃合の検討の対象とされている賀茂北高等学校の活性化策を支援するため、令和４年度から行っている。

補助金の効果については、今後検証していく。

○ 令和５年度入学生徒数：３２人（昨年度比１人増）

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	3　高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践
施策の将来の目標像	すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けられ、青少年が将来に夢と希望をもち、主体性と創造性をもった人間として健やかに成長し、活動していくことができる安全・安心な社会環境が整っています。		
施策の数値目標	指標	現状値（Ｈ２９年度）	目標値（Ｒ６年度）
	全国学力・学習状況調査結果における正答率40%未満の児童の割合	11%	9%以下
	全国学力・学習状況調査結果における正答率40%未満の生徒の割合	17%	15%以下

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	③　地域と連携した青少年健全育成の環境づくり	主管部局・所属	学校教育部　　指導課
関係部局・所属	生涯学習部　　青少年育成課	生涯学習部	生涯学習課

3　目指す姿と戦略

目指す姿	地域及び関係諸機関との連携体制が整い、青少年の健全な育成が図られる	現状	全国や県に比して良好な傾向ではあるが青少年問題の課題は増加し、憂慮される

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
個々の児童生徒の状況に対応するための校内の仕組づくりが十分とは言えない。	個に応じた生徒指導の充実	高	1
家庭教育充実に資する保護者への啓発活動推進が十分とは言えない。	安全・安心に過ごせる児童生徒の居場所づくり	中	2
子どもと地域住民とのつながりや、地域で子どもが活動できる場が求められている。	地域学校協働活動の推進と児童の放課後活動の充実	低	3

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）		目標値及び実績値	R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	不登校児童生徒数	222 （　R1　） マイナス指標設定			210	205	200	200	人
					307	446		（　R5　）	
					68.4%	46.0%		44.8%	
(ｲ)	スクールソーシャルワーカーの取組での改善率	83 （　R1　）		上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	84.0	84.5	85.0	85	%
					93.8	95.2		（　R5　）	
					111.7%	112.7%		112.0%	
(ｳ)	いじめ解消率	75 （　R1　）			78	79	80.0	80	人
					72	71		（　R5　）	
					92.3%	89.9%		88.8%	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	一般財源	決算額	一般財源	人件費
	R　年 3　度	65,394	58,145	51,488	49,433	
	R　年 4　度	75,720	63,562	60,982	54,701	33,138千円

6　戦略を構成する事務事業

（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･1･3 生徒指導推進事業	指導課	2.95	48,701 42,499	51,579 45,922
2-1	10･5･1 青少年健全育成事業	青少年育成課	0.73	3,714 3,244	3,781 3,108
2-2	10･5･1 青少年健全育成団体支援事業	青少年育成課	0.65	2,409 2,299	2,409 2,308
3-1	10･5･1 放課後子供教室運営事業	青少年育成課	0.43	9,517 3,303	14,338 9,035
3-2	10･5･1 地域学校協働活動推進事業	生涯学習課	0.50	1,053 143	3,613 609
合計			5.26	65,394 51,488	75,720 60,982

7　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	14,738千円	分析	大学生サポーター等の必要な人材を確保することができなかったため。

8　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	82.8%	分析	社会の変化により、学びの場が学校だけではなく、多様な選択肢があることを踏まえ、成果指標を社会的自立に向けた成果を見取るものにし、その取組を充実させる必要がある。

9　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	不登校児童生徒数の減少には至らなかったが、児童生徒や学校の状況を踏まえ、不登校児童生徒に対する取組を行うことで個々の状態に改善は見られており、取組は概ね適切であった。 また、地域の団体や有志と連携して、子どもたちへ様々な体験を提供したり、啓発を行うなど青少年の健全育成に資する各種事業を実施したことは適切であった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	校内特別支援教室の設置やスクールソーシャルワーカーの派遣等により、個々に最適な支援を行い、一定の成果はみられた。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	不登校児童生徒数の増加については、社会的な価値観の変化、学びの場の多様化、家庭環境の変化等、児童生徒を取り巻く環境の変化が影響していると思われる。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対策により、一部の事業において実施回数の減少やイベントの中止があった。

１０　総合評価

総合評価	B	＜総評＞ 不登校等児童生徒に対する取組により改善がみられた事例は増加しているが、児童生徒を取り巻く環境の変化などの影響もあり、不登校児童生徒数の減少には至らなかった。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
不登校等児童生徒の状況は様々であり、個に応じた支援をより充実させる必要がある。 多世代交流を伴う生涯学習の経験は青少年の自己成長に繋がることから、このような経験の機会を充実させていく必要がある。	→	校内特別支援教室の拡充、心のサポーターやスクールソーシャルワーカーの拡充など学校と関係機関の連携を密にし、学校を取り巻く地域全体で個に応じた支援を充実させる。 青少年が地域住民等の支援を得て、地域活動に参画する機会づくりに取り組む。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	3　高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	③　地域と連携した青少年健全育成の環境づくり

事業の概要			
戦略	1　個に応じた生徒指導の充実	予算　51,579 千円	決算　45,922 千円
事務事業	1-1　生徒指導推進事業	予算　51,579 千円	決算　45,922 千円

内容

1-1_生徒指導の推進

【拡】①　個別支援の充実（21,478 千円）

ア　校内特別支援教室の設置（うち 441 千円）

不登校児童生徒等の社会的自立を促すために、校内特別支援教室（スペシャルサポートルーム（ＳＳＲ））を設置した。

【活動指標】

校内特別支援教室の設置：小学校４校（Ｒ３年度：３校）　⇒　５校
中学校４校（Ｒ３年度：３校）　⇒　３校

【成果・課題】

ＳＳＲを新設した２小学校においては、普通教室以外に児童の居場所（ＳＳＲ：校内の一教室）ができ、支援環境の充実を図ることができた。

不登校の要因が多様化し、不登校児童生徒数も年々増加しており、未設置の小中学校への更なる支援の充実が必要である。

校内特別支援教室設置校

	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
小学校	西条小 三ツ城小	西条小 川上小 三ツ城小	西条小 川上小 高屋西小 三ツ城小 中黒瀬小
中学校	黒瀬中 中央中	西条中 黒瀬中 中央中	西条中 黒瀬中 中央中
計	４校	６校	８校

不登校児童生徒数

	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
小学校	７７人	１０５人	１６３人
中学校	１３５人	２０２人	２８３人

事業の概要

イ　心のサポーターの配置（うち 21,037 千円）

児童生徒、保護者及び教職員の抱える悩みへの相談など教育相談体制の充実を図るために、全小中学校に心のサポーターを配置した。

【活動指標】

心のサポーターの配置

ＳＳＲ設置校　：１日６時間で週５日（１０，８００時間）

ＳＳＲ未設置校：小学校１日４時間で隔週１日から毎週１日

中学校１日４時間で毎週２日から３日（６，４８０時間）

⇒　ＳＳＲ設置校　：１日６時間で週５日（９，８２５時間）

ＳＳＲ未設置校：小学校１日４時間で隔週１日から毎週１日

中学校１日４時間で毎週２日から３日

（６，２０４時間）

【成果・課題】

心のサポーターが児童生徒の不登校、学習、人間関係等の相談を受け、先行的、即応的に対応を行うことができた。

しかしながら、不登校児童生徒数は増加しており、更なる相談体制等の充実が必要である。

【拡】②　教育相談・家庭支援の充実　（12,804 千円）

ア　スクールソーシャルワーカーの派遣（うち 9,342 千円）

学校・家庭・関係機関等のネットワークを構築し、児童生徒の自立に向けた支援を行うために、スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）を派遣した。

【活動指標】

スクールソーシャルワーカーの派遣：2,544 時間

臨床心理士の派遣　：１日（６時間）×週２日（６３６時間）

社会福祉士等の派遣：１日（６時間）×週６日（１，９０８時間）

⇒　臨床心理士の派遣　：１日（６時間）×週２日（４９１時間）

社会福祉士等の派遣：１日（６時間）×週６日（１，８０５時間）

【成果・課題】

ＳＳＷの派遣により、不登校等児童生徒の登校状況の改善が見られた。

しかしながら、学校だけでは解決が困難なケースが増加しており、個に応じた支援や関係機関との更なる連携が必要である。

ＳＳＷの実施状況

	Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
ＳＳＷの人数	４人	５人	５人	６人
対象者数（延べ人数）	１，８２４人	２，２５８人	３，８２１人	３，２０２人
連携回数	１，１４６回	１，５９２回	３，０１０回	２，３５０回
連携時間	１，０８３時間	１，４３１時間	２，２３９時間	２，２９６時間

事業の概要

イ　児童青少年総合相談室の設置（うち 3,462 千円）

保護者等の多様な教育相談のニーズに対応するために、児童青少年総合相談室を設置し、教育相談員やカウンセラーを派遣した。

【活動指標】

教育相談員の派遣　：１日（５．５時間）×週４日
⇒　１日（５．５時間）×週４日

カウンセラーの派遣：１日（３時間）×週２日
⇒　１日（３時間）×週２日

【成果・課題】

幼児や高校生の保護者の相談もあり、小中学校以外の青少年に関わる相談等にも応じることができた。

今後も、継続して必要な人員の確保に努める必要がある。

③　校外適応指導教室の設置（9,949 千円）

不登校等児童生徒の社会的自立を支援するために、学習指導や体験活動を行う校外適応指導教室（フレンドスペース）を設置した。

【活動指標】

校外適応指導教室の設置：３地域（西条・黒瀬・豊栄）・指導員７人
⇒　３地域（西条・黒瀬・豊栄）・指導員７人

【成果・課題】

校外適応指導教室に通室することで、学校に復帰できたり、学校との併用で登校を継続できたりした児童生徒もいた。

不登校等児童生徒の学びの選択肢の一つとして、校外適応指導教室の利用を保護者に対して学校と連携して促すことも必要である。

④　安全指導者の派遣・配置（997 千円）

学校の防犯や非行防止に関する取組みの充実を図るとともに、児童生徒の通学の安全を高めるために、スクールガードリーダーの派遣や学校安全ボランティアの配置を行った。

【活動指標】

スクールガードリーダーの派遣：４８回　⇒　３５回

学校安全ボランティアの登録：１４，０００人　⇒　１４，２７２人

【成果・課題】

非行防止教室や防犯教室を計画的に実施し、児童生徒や教師の安全意識を高めることができた。

今後も、継続して非行防止教室等を実施するとともに、派遣する学校を拡充していくことも必要である。

事業の概要

⑤　教職員の生徒指導力向上（319 千円）

学校における生徒指導に係る取組みの充実を図るために、生徒指導教育実践指定校を指定するとともに生徒指導主事等を対象とした研修を実施した。

【活動指標】

生徒指導教育研究実践校の指定：１校　⇒　１校

生徒指導主事等研修の実施　　：１回　⇒　１回

【成果・課題】

生徒指導主事等を対象に不登校をテーマとした研修を実施し、教職員の生徒指導力の向上を図ることができた。

今後も、学校や児童生徒の実態に応じたテーマを設定し、継続して実施することが必要である。

⑥　いじめ防止に向けた取組（254 千円）

いじめ防止に向けた児童生徒による主体的な活動やいじめの再発防止に係る取組みを支援した。

【活動指標】

いじめ防止に向けた児童会・生徒会の取組みの支援：２０校　⇒　１６校

【成果・課題】

児童会や生徒会が中心となり、いじめ防止に向けた標語や防止を呼び掛けるデザイン旗の作成などの取組みを行ったことで、児童生徒のいじめ防止の意識を高めることができた。

今後も、継続して支援することが必要である。

事業の概要				
戦略	2	安全・安心に過ごせる児童生徒の居場所づくり	予算　6,190 千円	決算　5,416 千円
事務事業	2-1	青少年健全育成事業	予算　3,781 千円	決算　3,108 千円

内容

2-1_青少年健全育成を支える環境づくり

① 児童青少年センター活動の充実（1,076 千円）

ア　児童厚生員の配置（うち 1,026 千円）

保育士資格を持つ児童厚生員が、育児や保護者自身の悩み等の相談に対応した。

勤務日時：毎週火・木・日曜日　10 時 30 分から 17 時

【活動指標】

・対象　乳幼児の保護者
・場所　児童青少年センター
・相談者数　のべ 250 人　⇒　のべ 214 人

イ　児童生徒等の異年齢集団による活動（うち 50 千円）

(ｱ) ゆーすふる・チャレンジャー開催（うち 0 千円）

児童青少年センターを拠点に活動する、青少年のボランティアグループが、幼稚園や保育園児、小学生など向けの行事などを企画・運営した。

【活動指標】

・対象　中学生から 24 歳以下の若者
・場所　憩いの森公園ほか
・参加者数　50 人　⇒　49 人

ゆーすふる・チャレンジャーの様子

(ｲ) 親子わくわく講座開催（うち 50 千円）

親子や保護者同士のふれあいを深めることを目的として、月 1 回、ものづくりや体験活動に係る講座を行った。

【活動指標】

・対象　未就学児とその保護者
・場所　児童青少年センター
・回数　12 回　96 組
　⇒　12 回　92 組

親子わくわく講座の様子

【成果・課題】

児童厚生員による育児をはじめとした相談に対するアドバイスや情報提供、専門機関の紹介を行うことができた。

ゆーすふる・チャレンジャーは、中学生から大学生まで 49 名の参加登録があった。自主的、主体的な活動を目指していることから、参加者に活動の趣旨を充分に理解してもらう必要がある。

親子わくわく講座では、半数以上の講座にキャンセル待ちが発生しており、はじめて参加する希望者を優先するなど、より多くの親子に参加してもらえるよう努めた。

事業の概要

② 地域の安全・安心の推進（1,893 千円）

ア　青少年指導員による巡視活動（うち 1,842 千円）

青少年指導員（8 人）が駅前や商業施設等を中心に巡回し、青少年への声かけ活動や補導指導などの街頭補導活動を行った。

【活動指標】

・対象　市内の青少年

・場所　市内各地域

・回数　1,100 回　⇒　1,153 回

イ　青少年問題協議会の開催（うち 51 千円）

地方青少年問題協議会法に基づく東広島市青少年問題協議会を設置し、青少年の地域活動の「体験の場」づくりについての意見交換等を行った。

【活動指標】

・対象　会長（市長）ほか委員 16 人

・場所　市役所

・回数　1 回　⇒　1 回

【成果・課題】

青少年指導員による街頭などでの巡視及び声かけにより、東広島警察署管内の不良行為少年数の減少（R3 年中 158 人⇒R4 年中 139 人）に効果があった。

青少年問題協議会で各関係団体から出された青少年の現状や地域活動への参画に係る意見等を、学びのキャンパス推進事業における行動計画に反映させることができた。引き続き当協議会を通して関係団体の連携の充実を図る必要がある。

事業の概要				
戦略	2	安全・安心に過ごせる児童生徒の居場所づくり	予算　6,190 千円	決算　5,416 千円
事務事業	2-2	青少年健全育成団体支援事業	予算　2,409 千円	決算　2,308 千円

内容

2-2_青少年健全育成団体の支援

① 青少年健全育成団体への財政支援（2,294 千円）

青少年が豊かな創造力と自主性を持った社会の一員となるよう、青少年健全育成の活動団体へ財政支援を行った。

ア　青少年育成東広島市民会議（うち 1,210 千円）

国・県・市の施策に呼応して次代を担う青少年の非行防止や健全育成を目的として、研修会や講演会、巡回指導、各種啓発活動を行う団体。

あいさつ・声かけ運動

イ　“社会を明るくする運動”東広島推進委員会（うち 513 千円）

青少年健全育成活動及び更生保護活動によって犯罪の未然防止や罪を犯した人たちの更生に理解を深めることを目的として、各種啓発活動を実施する団体。

作文・標語コンテスト表彰式

ウ　各種団体助成（うち 571 千円）

女性連合会及びＰＴＡ連合会に対して助成を行った。

事業の概要				
戦略	3	地域学校協働活動の推進と児童の放課後活動の充実	予算　17,951 千円	決算　9,644 千円
事務事業	3-1	放課後子供教室運営事業	予算　14, 338 千円	決算　9,035 千円

内容

3-1_児童の放課後活動の充実

① 放課後子供教室の実施　(9, 035 千円)

地域と学校の連携・協働のもと、幅広い地域住民が参画し、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域の交流を促進した。

【活動指標】

・対象　地域・学校

・場所　市内の各小学校区

・教室数　8 教室増　　一体型の実施　5 教室

⇒　1 教室減　　一体型の実施　11 教室

地域探検

ホットケーキづくり

放課後子供教室一覧

	教室名	小学校区
1	川上やっチャオ☆スクール	川上小学校区
2	志和放課後子ども教室すばる	志和小学校区
3	吉川放課後子供教室	吉川小学校区
4	高美が丘つくしんぼクラブ	高美が丘小学校区
5	木谷放課後子供教室	木谷小学校区
6	三ツ城放課後子供教室	三ツ城小学校区
7	豊栄放課後子供教室	豊栄小学校区
8	河内放課後子供教室	河内小学校区
9	入野放課後子供教室	入野小学校区
10	板城ハッピー☆スクール	板城小学校区
11	高屋東放課後子供教室	高屋東小学校区
12	八本松チャレンジ教室	八本松小学校区
13	郷田 GOGO クラブ	郷田小学校区
14	平岩放課後子供教室	平岩小学校区
15	東西条放課後子供教室	東西条小学校区
16	御薗宇放課後子供教室【スマイル】	御薗宇小学校区
17	小谷元気っ子教室	小谷小学校区
18	高屋西放課後子供教室	高屋西小学校区
19	三永小学校放課後ワクワク子供教室	三永小学校区
20	風早放課後子供教室	風早小学校区

【成果・課題】

放課後等において、学習や様々な体験・交流活動の機会を 406 回、のべ 8, 080 人の子どもたちに提供した。

高齢化に伴うスタッフの減少により、運営に支障をきたしている教室があることから、対策として、青少年が企画・運営に参加するなどの支援を行う必要がある。

事業の概要				
戦略	3	地域学校協働活動の推進と児童の放課後活動の充実	予算　17,951 千円	決算　9,644 千円
事務事業	3-2	地域学校協働活動推進事業	予算　3,613 千円	決算　609 千円

内容

3-2_地域学校協働活動の推進

① 地域学校協働活動推進員の配置 （609 千円）

地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員をコミュニティ・スクール導入校に配置し、地域学校協働活動の企画・連絡調整を行った。

【活動指標】

・推進員数　11 人増　　合計 22 人　⇒　9 人増　　合計 20 人

【成果・課題】

地域学校協働活動推進員を学校運営協議会が設置されている 20 校全てに配置することにより、学校との情報共有や学校と連携した地域活動など、さまざまな活動が行われている。

地域学校協働活動推進員の配置が進む中、各地域の実情に応じた助言の継続や推進員同士の横のつながりづくりが求められる。

また、今後設置される全ての学校運営協議会への地域学校協働活動推進員の配置を計画的にすすめていく必要がある。

【地域学校協働活動推進員の配置】

Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
８人	１１人	２０人
風早小	風早小	風早小
高美が丘小・中	高美が丘小・中	高美が丘小・中
福富中	福富小・中	福富小・中
八本松小	八本松小	八本松小
小谷小	小谷小	小谷小
御薗宇小	御薗宇小	御薗宇小
上黒瀬小	上黒瀬小	上黒瀬小
龍王小	龍王小	龍王小
	志和中	志和小・中
	河内中	河内小・中、入野小
	寺西小	寺西小
		三永小
		高屋東小
		吉川小
		郷田小
		板城小
		板城西小
		乃美尾小
		木谷小
		三津小

※　令和６年度に全ての学校運営協議会に地域学校協働活動推進員を設置する予定

事業の概要

【主な地域学校協働活動の内容】

あいさつ・声かけ・見守り活動、環境美化活動、自生地の保全活動、
多様な体験学習（収穫体験・郷土学習・環境教室・防災教室・水辺教室など）

地域のシンボル「二ツ山」の登山学習
（板城西小学校）

大根と落花生の収穫
（河内中学校）

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	4　新たな価値を創造する人材の育成
施策の将来の目標像	多くの子どもたちが最先端技術に関心を持ち、行政と地域の大学や試験研究機関、企業等が連携し、質の高い学びの機会が提供されています。		
施策の数値目標	指標	現状値（Ｒ１年度）	目標値（Ｒ６年度）
	「授業によって、自ら課題を設定し、その解決に向けて友達と協力し、解決する力を高められている」と回答した児童･生徒の割合	―	80%以上

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	①　理科系教育分野等の教育内容の充実	主管部局・所属	学校教育部　　指導課
関係部局・所属			

3　目指す姿と戦略

目指す姿	世界基準で活躍できる人材育成に根差した教育が学校内外で行われ、児童生徒の理数系教育への興味関心が高まる	現状	理数系教育への関心･意欲が高いとは言えず、理科･算数･数学の高水準学力を維持することが懸念される。

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
理数教育の魅力を強く感じられるような授業が十分に行えているとは言えない	子どもたちの理科系教育分野への興味･関心醸成	中	1

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）		目標値及び実績値 R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	「全国学力･学習状況調査」の理科･算数･数学において、全国平均を上回る学校の割合	85	上段：目標値	86.0	86.5	87.0	87.0	%
		（　R1　）	中段：実績値	65	69		（　R5　）	
			下段：達成率	75.9%	80.1%		79.7%	
(ｲ)	講座参加者の学習満足度	95		100.0	100.0	100.0	100.0	%
		（　R1　）		95	87		（　R5　）	
				94.6%	87.0%		87.0%	
(ｳ)	理科アシスタント配置校における理科を好きな児童の割合	92		94.0	95.0	95.0	95.0	%
		（　R1　）		92	81		（　R5　）	
				97.9%	85.6%		85.6%	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	決算額	人件費
		一般財源	一般財源	
	R　年 3　度	11,204	3,316	
		10,841	3,093	
	R　年 4　度	6,159	3,385	6,300千円
		5,789	3,096	

６　戦略を構成する事務事業　　（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･1･3 科学の芽育成事業	指導課	1.00	11,204 3,316	6,159 3,385
合計			1.00	11,204 3,316	6,159 3,385

７　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）　※決算額には繰越を含む。

差額	2,774千円	分析	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、講座の受講を見送る学校があったため。

８　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	84.2%	分析	様々な講座を準備することにより、児童生徒の理数系教育分野への興味･関心を醸成することができた。

９　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	大学や企業と連携し、専門的知識や技術を有する講座を設定することができており、科学の芽育成講座の取組は一定程度妥当であったと考えられるが、実施した学校が47.8%と低いことから改善する必要がある。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	大学や企業と連携しながら実施している。学校の規模等を踏まえ、講座ごとに必要物品数等を調整しており、経済的･効率的である。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、応募の見送り等の影響があったと考えられる。

１０　総合評価

総合評価	B	＜総評＞ 事業を展開することにより、子供たちの理数系教育分野への興味･関心を高めることができつつあるが、学力の向上に結びついているとはいえない。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
受講した児童生徒の講座満足度や講座理解度は高いが、成果の周知が十分でないため、受講を希望しない学校がまだ多い。また、事前、事後の連携を密にし、講座内容の充実を図る必要がある。	→	より多くの学校で科学の芽育成講座（出前講座）を実施していくために、さらなる成果の周知と講座の充実に努める。 また、理科観察実験アシスタントにおける人材確保のため、大学との連携を充実させる。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
３　人づくり	４　新たな価値を創造する人材の育成	①　理科系教育分野等の教育内容の充実

事業の概要				
戦略	1	子どもたちの理科系教育分野への興味・関心醸成	予算　6,159 千円	決算　3,385 千円
事務事業	1-1	科学の芽育成事業	予算　6,159 千円	決算　3,385 千円

内容

1-1_児童生徒の科学の芽育成

①　科学の芽育成講座の実施（2,515 千円）

児童生徒の科学に対する興味・関心を高めるために、大学や企業が有する専門的知識や技術を活用し、出前講座を実施した。

【活動指標】

科学の芽育成講座の実施：７０回　⇒　６１回

【成果・課題】

普段の授業では学ぶことのない未知の生き物について知ったり、丁寧な準備と様々な支援の下で微生物を観察したりすることができ、参加した児童生徒へのアンケートの結果、講座満足度は８７．０％、講座理解度は９８．１％であった。しかしながら、文部科学省が、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高い活動として、理科の実験や観察を挙げていたこともあり、受講を希望する学校は少なかった。

より多くの学校で実施できるよう、成果の周知と講座の充実に努めていくことが必要である。

科学の芽育成講座の実績

	Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４
小学校	２１校４８学級	１３校２６学級	１０校２３学級	１６校３８学級
中学校	２校　６学級	なし	１校　１学級	６校２３学級
計	２３校５４学級	１３校２６学級	１１校２４学級	２２校６１学級

※令和４年度から、「めざせ！未来のノーベル賞科学の芽成長プロジェクト」を科学の芽育成講座に統合した。

事業の概要

② 理科観察実験アシスタントの配置（870 千円）

理科の授業における観察や実験を充実させるために理科の専門性を有する大学院生等を理科観察実験アシスタントとして小学校に配置した。

【活動指標】

理科観察実験アシスタントの配置：８人 ⇒ ８人

【成果・課題】

理科観察実験アシスタントの配置により、理科授業の準備や片付けの支援ができ、小学校の理科授業における観察や実験を充実させることができた。アシスタントの大半は大学院生が担っており、移動手段が限られているため、配置できる学校が限定される。

今後も、継続して人材の確保に取り組む必要がある。

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	4　新たな価値を創造する人材の育成
施策の将来の目標像	多くの子どもたちが最先端技術に関心を持ち、行政と地域の大学や試験研究機関、企業等が連携し、質の高い学びの機会が提供されています。		
施策の数値目標	指標	現状値（Ｒ１年度）	目標値（Ｒ６年度）
	「授業によって、自ら課題を設定し、その解決に向けて友達と協力し、解決する力を高められている」と回答した児童・生徒の割合	―	80%以上

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	②　子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実	主管部局・所属	生涯学習部　生涯学習課
関係部局・所属	生涯学習部　　文化課		

3　目指す姿と戦略

目指す姿	市内大学・試験研究機関等との連携により、子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実が図られている	現状	子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の提供が十分ではない

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
児童が参加しやすい講座を提供する必要がある。	創造性豊かな子どもの育成につながる学びの充実	高	1
地域資源である大学等と連携し、創造性豊かな人材を育成する必要がある	子どもの興味・関心と創造性を伸ばす講座の充実	低	2

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）	目標値及び実績値	R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	出前美術館・博物館、芸術体験事業の満足度の割合	85 （　R1　）		88	89	90	91	
				100	100		（　R6　）	%
				113.6%	112.4%		109.9%	
(ｲ)	生涯学習パスポート（小・中学生用）の奨励者の割合	15.4 （　H30　）	上段：目標値	17.0	17.5	18.0	18.0	
			中段：実績値	11.6	11.7		（　R5　）	%
			下段：達成率	68.2%	66.9%		65.0%	
(ｳ)		（　　）						
							（　　）	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	一般財源	決算額	一般財源	人件費
	R　年 3　度	4,241	4,241	1,114	1,114	
	R　年 4　度	4,506	4,506	1,500	1,500	6,741千円

６　戦略を構成する事務事業　　（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･5･2 文化芸術体験事業	文化課	0.56	4,105 1,009	4,026 1,195
2-1	10･5･2 豊かな学び創造事業	生涯学習課	0.51	136 105	480 305
合計			1.07	4,241 1,114	4,506 1,500

７　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）　※決算額には繰越を含む。

差額	3,006千円	分析	はじめてビジュツカンにおいて、小学生の送迎に使用するバスの運用方法の変更により、借り上げる台数が減ったため。

８　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	89.6%	分析	小中学生の興味関心を引くイベント等を行い、参加率とその満足度は高かったが、ジュニアパスポートの奨励率は小学生ほどは達しなかった。

９　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	地域の知的資源である研究施設や本市独自の施設等を活用し、子どもたちが日常では経験できない講座等を開催したことで、満足度も高く、妥当であった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	はじめてビジュツカンでは、学校からの移動手段に学校と近いバス会社との契約を締結することで経費削減に努めた。 大学等との連携により、博物館や研究施設等を無償で活用することができた。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、連携する大学等とも検討し、参加人数や回数等は配慮しつつも概ね実施することができた。

１０　総合評価

総合評価	B	＜総評＞ 一部では募集定員を大きく下回る講座もあり内容等の検討が必要だが、地域にある大学や試験研究機関等と連携し、文化芸術などの本物に触れる機会を設けることや、より質の高い学びの場を提供することができ、満足度も高く、興味関心も広げることができた。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
●大学と連携することで、普段触れることのない施設等での学習も可能となることから、幅広い分野を対象とした学習の機会を確保する必要がある。	→	●大学と引き続き連携し、普段の学校教育だけではなかなか体験することができない「宇宙科学」や「情報技術」、「自然科学」とともに、様々な理系分野の学習機会を提供していく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	4　新たな価値を創造する人材の育成	②　子どもの興味･関心及び創造性を伸ばす教育の充実

事業の概要			
戦略	1　創造性豊かな子どもの育成につながる学びの充実	予算　4,026 千円	決算　1,195 千円
事務事業	1-1　文化芸術体験事業	予算　4,026 千円	決算　1,195 千円

内容

1-1_文化芸術体験の振興

①　文化芸術体験の振興（1,195 千円）

ア　出前美術館（うち 6 千円）

美術館所蔵作品の図版等を活用した鑑賞教材を用いて、子どもたちが楽しみながら作品に鑑賞する機会を提供した。

【活動指標】

対象　市内小中学校：3 校　⇒　5 校

アートカードを活用した授業

イ　出前博物館（うち 9 千円）

出土文化財や民具等を学校に持参し、見て触ってその質感を体験することで歴史や文化・文化財への興味を醸成した。

【活動指標】

対象　市内小中学校：5 校　⇒　7 校（延べ 9 回）

本物の土器に触れる体験

ウ　はじめてビジュツカン（うち 1,180 千円）

市内の小学生を美術館に招待し、実際に本物の美術作品に触れ、子どもたちの感性を養う機会を設けた。

【活動指標】

対象　小学 4 年生：32 校　⇒　24 校

美術館での作品鑑賞体験

【成果・課題】

目標４０校（ア３、イ５、ウ３２）に対し、３６校（ア５、イ７、ウ２４）から応募があり、生徒から高い評価を得ることができ、出土文化財など本物に触れる体験学習の場を提供することができた。

生徒の多い学校での出前博物館では、体験学習の時間配分について工夫する必要がある。

事業の概要				
戦略	2	子どもの興味・関心と創造性を伸ばす講座の充実	予算　480 千円	決算　305 千円
事務事業	2-1	豊かな学び創造事業	予算　480 千円	決算　305 千円

内容

2-1_豊かな学びの創造

市内の大学や試験研究機関等と連携・協働し、その知見を活用して、子どもたちの豊かな学びにつながる講座を提供した。

① 宇宙科学講座「ひがしひろしまスペースクラブ」の実施（212 千円）

宇宙や天体について、座学やグループワーク、天体観測を通じて学び、科学的な興味や関心を高める場を提供した。

【活動指標】

・対象　小学生（30 人／各回×2 クラス）⇒　25 人／各回×2 クラス
・場所　広島大学、武田中学・高等学校、東広島天文台ほか
・回数　16 回（2 クラス　各 8 回連続）⇒　16 回

【成果・課題】

参加者へのアンケート調査では、回答者の８０％の受講者が「理科の勉強が好きになった」と回答しており、科学的な興味・関心が高まる機会となった。

新型コロナウイルス感染拡大対策として参加人数を制限する必要があり応募者全員が受講できなかったため、科学的な興味・関心が高まるよう、機会の提供や内容の充実に取り組む必要がある。

ひがしひろしまスペースクラブ

② 宇宙科学講座「ひがしひろしまスペースクラブ～特別編～」

天体や宇宙の様々な現象（例：部分月食等）について、学び、実際に観測する機会を提供する予定としていたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止した。

【活動指標】

・対象　小学生（30 人）
・場所　広島大学ほか
・回数　1 回　　⇒　新型コロナウイルス感染拡大により中止

事業の概要

③　東広島天文台観望会の開催

広島大学と共催し、東広島天文台で特別観望会を開催した。

【活動指標】

・対象　小学生以上（560 人／年）⇒　105 人

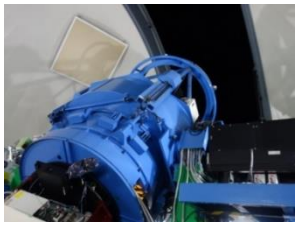
・場所　東広島天文台

・回数　4 回程度　⇒　2 回

【成果・課題】

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、計画どおりの実施ができなかったが、３年ぶりの開催となり、市内の研究資源である「かなた望遠鏡」に触れ、宇宙科学への興味関心を高めるきっかけとなった。

今後も、大学等と連携して、科学技術や市内資源への興味・関心が得られるよう機会の提供に取り組む必要がある。



東広島天文台

【新】④　情報科学講座「ひがしひろしま情報みらい塾」（93 千円）

市内大学や研究機関の知見を活用し、プログラミングなどの技術を通して、子どもたちの創造力や論理的思考力を養い、情報科学に興味や関心を高める場を提供した。

【活動指標】

・対象　小学生（20 人／各回）　⇒　連続講座 3 人、発表・体験会 18 人

・場所　東広島芸術文化ホールくらら ほか

⇒　近畿大学工学部、北部学校給食センター

・回数　8 回（連続講座）　⇒　3 回（うち 1 回は発表・体験会）

【成果・課題】

連続講座の受講応募者が少なかったため、最終回を発表・体験会にするなど計画を変更して実施した。参加者へのアンケート調査では、回答者全員が「とても良かった」、「良かった」と回答し、プログラミングに対する興味・関心を得ることができた。

今後は、より多くの参加が得られるようカリキュラムについて、見直す必要がある。

ひがしひろしま情報みらい塾

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	5　知的資源と国際性を活かした人づくり
施策の将来の目標像	大学立地などの地域の特性を活かし、その知見を活かした教育が提供され、国際感覚を備え、高度な専門性を身に付けた人材が数多く育っています。		

施策の数値目標	指標	現状値（Ｒ１年度）	目標値（Ｒ６年度）
	「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたい」と思う児童の割合	73.3%	80%以上
	「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたい」と思う生徒の割合	66.8%	70%以上

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	①　大学･企業等との連携による学びの充実と国際感覚の醸成	主管部局・所属	学校教育部　　指導課
関係部局・所属	生活環境部　　市民生活課	生涯学習部	生涯学習課
	生涯学習部　　文化課		

3　目指す姿と戦略

目指す姿	大学･企業等との連携により市民の学びが深まるとともに、外国に繋がる人との交流が広がり国際感覚が醸成される	現状	研究資源や高い専門性を持つ人材が「学び」に十分に活かせておらず、国際感覚の醸成も十分高まっているとは言えない。

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
本市が有する教育資源の効果的な活用及び連携充実に資する関係部局の協働体制が十分とは言えない	大学等研究機関や各種教育機関･企業と連携した教員研修及び学校の学び充実	高	1
関係機関と連携した国際交流機会を計画的かつ効率的に創出する必要がある	国際感覚の醸成	中	2
大学や試験研究機関と連携した講座の充実を図る必要がある	大学や試験研究機関等と連携した豊かな学びにつながる講座の充実	低	3

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）	目標値及び実績値	R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	各種主催講座等の受講により、コミュニティ活動に取り組んで行こうとする人の割合	80 （　R1　）	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	83 84 101.2%	84 84 100.0%	85 	85 （　R5　） 98.8%	%
(ｲ)	「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたい」と思う児童･生徒の割合	80 （　R1　）		82 67 81.7%	83 65 78.3%	84 	84 （　R5　） 77.4%	%
(ｳ)	埋蔵文化財へ興味･関心を持ったと回答した小学生･保護者の割合	90 （　R1　）		92 97 105.4%	93 100 107.5%	94 	94 （　R5　） 106.4%	%

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	一般財源	決算額	一般財源	人件費
	Ｒ３年度	2,904	2,904	1,749	1,749	
	Ｒ４年度	2,787	2,787	2,177	2,177	13,293千円

６　戦略を構成する事務事業　　（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･1･3 未来創造キャリア形成事業	指導課	0.25	425 0	413 398
1-2	10･5･5 歴史体験事業	文化課	0.51	129 55	152 76
2-1	10･1･3 グローバルマインド育成事業	指導課	0.30	1,418 1,184	1,224 1,073
2-2	2･1･7 国際理解推進事業	市民生活課	0.48	35 0	35 35
3-1	10･5･2 学びのキャンパス推進事業	生涯学習課	0.57	897 510	963 595
合計			2.11	2,904 1,749	2,787 2,177

７　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）　※決算額には繰越を含む。

差額	610千円	分析	新型コロナウイルス感染症の影響で、外国語活動協力者の派遣が十分にできなかったため。

８　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	95.3%	分析	大学等と連携して充実した取組を実施することにより、概ね目標を達成することができた。

９　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	大学等との連携事業については、効果的な取組みを実施することができた。また、外国語活動を通した国際教育の活動では、学校からの要望に応えることができており、大学等と連携した取組みは適切であった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	大学等との連携により、地域の知的資源を活用しながら事業を実施することができた。また、市内の大学での学びや外国人留学生との交流を、質の高い教育の実現につなげることができた。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、職場体験学習を行うことができた。受入事業所数は、介護･医療施設以外は受入が可能であったが、感染が拡大した時は、急遽中止することとなった事業所もある。

１０　総合評価

総合評価	A	＜総評＞ 新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながらも、児童生徒等の学びを止めない形での実施をすることができた。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたい」と思う児童･生徒数を増加させる必要がある。 市内の大学や研究機関等による学習機会の提供を推進するとともに、学び得た知識を地域等で活用してもらえるような機運の醸成を図る必要がある。	→	従来の実施方法だけでなくオンライン端末を活用する等、新たな取組を開拓する。 市民が大学へ、また大学が地域へ出向き学習機会提供することで、市民の学びが各地域において深まるよう取り組んでいく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	5　知的資源と国際性を活かした人づくり	①　大学・企業等との連携による学びの充実と国際感覚の醸成

事業の概要				
戦略	1	大学等研究機関や各種教育機関・企業と連携した教員研修及び学校の学び充実	予算　565 千円	決算　474 千円
事務事業	1-1	未来創造キャリア形成事業	予算　413 千円	決算　398 千円

内容

1-1_未来創造及びキャリアの形成

①　中学生職場体験学習の実施（398 千円）

働くことの意義を理解し、主体的に進路を決定しようとする意欲を持たせるために、中学校２年生を対象に職場体験学習を実施した。

【活動指標】

中学生職場体験学習の実施：１４校　⇒　１４校

【成果・課題】

市内１４校の中学校が、６月から２月までの間に、３～５日間の職場体験学習を行った。

新型コロナウイルス感染症対策のため、病院・介護施設等の受入れができなかったが、それ以外の事業所での実習を行うことがきた。

また、体験期間を３～５日と柔軟にしたことで、受入れが可能な事業所が増え、充実した職場体験学習を実現することができた。

今後も、受入先の確保に努める必要がある。

事業の概要			
戦略	1　大学等研究機関や各種教育機関・企業と連携した教員研修及び学校の学び充実	予算　565 千円	決算　474 千円
事務事業	1-2　歴史体験事業	予算　152 千円	決算　76 千円

内容

1-2_歴史の体験

① 「親と子の体験歴史村」講座の実施（76 千円）

勾玉作りや火おこし等、親子で古代の人々の生活体験をすることで、埋蔵文化財への興味と関心を高めることができた。

【対象】市内小学 4～6 年生とその保護者
【場所】広島大学構内、広島大学総合博物館
【回数】7 月 23 日(土)午前と午後の 2 回開催
【人数】親子 31 組、65 人

火おこし体験の様子

勾玉づくりの様子

【成果・課題】

参加者へのアンケート調査では、回答者全員がこのイベントへ参加してみて「良かった」と回答をしており、満足度は非常に高く、今後も続けていくべき事業であるが、応募者が多いため、ボランティアなどの力を借りて参加人数を増やしていく必要がある。

事業の概要					
戦略	2　国際感覚の醸成	予算	1,259 千円	決算	1,108 千円
事務事業	2-1　グローバルマインド育成事業	予算	1,224 千円	決算	1,073 千円

内容

2-1_グローバルマインドの育成

① 外国語活動協力者の派遣（1,073 千円）

児童のグローバルマインドの涵養を図るために、小学校外国語活動の授業へ外国人の留学生等を派遣した。

【活動指標】

外国語活動協力者の派遣時間：８００時間　⇒　７０１時間

【成果・課題】

日本在住の英語が堪能な地域人材を、外国語活動指導協力者として、小学校９校に延べ１０人派遣したことにより、小学校１～４年生の外国語活動の授業の充実を図ることができた。

地域人材の効果的な活用内容については、改善の余地がある。

事業の概要			
戦略	2　国際感覚の醸成	予算　1,259 千円	決算　1,108 千円
事務事業	2-2　国際理解推進事業	予算　35 千円	決算　35 千円

内容

2-2_国際理解の推進

① JICA 研修事業研修員と市民等との交流の促進（35 千円）

ア　国際協力研修事業への協力による国際理解の促進

(ｱ) JICA「排水処理技術コース」への協力による国際理解の促進

新型コロナウイルス感染症の影響により、研修生は来日できなかったが、オンラインによる研修を実施し、庁内 5 課 10 名の職員が研修講師を務めた。

(ｲ) JICA 中国が実施する各種研修コースへの協力　5⇒7 コース/年

新型コロナウイルス感染症の影響により、来日できなかった 3 コースについてはオンラインで、その他 4 コースについては対面による研修講師として、6 課 26 名の職員が協力した。

研修コース名	主な対象国	研修方法
紛争影響国における地域社会再建に係る地方行政能力強化	パキスタン、南スーダン、ウガンダ、ナイジェリアほか	オンライン
紛争影響国における国家建設	ブルンジ、イラク、パレスチナ、ナイジェリアほか	オンライン
北東部復興計画策定能力強化	ナイジェリア	対面
地域開発・コミュニティ再建のための地方行政能力強化	南スーダン	対面
道路維持管理	エジプト、エチオピア、ガーナ、ザンビア、ソマリアほか	オンライン
地域社会再建にかかる地方行政能力強化	ソマリア	対面
廃棄物管理	イラク	対面

事業の概要			
戦略	3　大学や試験研究機関等と連携した豊かな学びにつながる講座の充実	予算　963 千円	決算　595 千円
事務事業	3-1　学びのキャンパス推進事業	予算　963 千円	決算　595 千円

内容

3-1_学びのキャンパスの推進

市内の大学や試験研究機関等と地域・市民の交流や連携を推進するとともに、市民の豊かな学びにつながる講座を提供した。

① 「東広島学」の開催（66 千円）

近畿大学工学部と連携し、市内の各分野で活躍する団体等の講義等を通じて、東広島を知り、愛着を持ってもらう講座を実施した。

【活動指標】

・対象　市民、学生　⇒　市民 9 人、学生 52 人
・場所　近畿大学工学部ほか
・回数　15 回（連続講座）⇒　15 回

【成果・課題】

受講者の講座に対する満足度は非常に高く、15 回の講座で様々なテーマの講座を行い、東広島を知り郷土愛の醸成を図ることができた。

今後は、この講座で学んだことを活用して、地域で活動してもらえるような機運の醸成を図る必要がある。

②「ボランティア発見講座」・「サマーカレッジ」の開催（89 千円）

広島国際大学と連携し、市内で活動するボランティア団体等の講座を通じて、ボランティア活動への関心を高める講座と専門的な学術分野の講演会を実施した。

【活動指標】

・対象　市民、学生　⇒　（連続講座）市民 4 人、学生 19 人
（サマーカレッジ）74 人
・場所　広島国際大学ほか
・回数　8 回（連続講座）⇒　8 回、（サマーカレッジ 1 回）

【成果・課題】

「これからも地域活動に参加したり、自分でなにか学びたいと思いましたか？」との質問に、「とても思った」または「思った」と回答した人が 94%であり、ボランティア活動への興味・関心を引き起こすことができた。

今後は、受講生たちが、実際の様々なボランティアに参加できる仕組みを作っていく必要がある。

事業の概要

③　「広大マスターズ市民講座」の開催

広島大学マスターズと連携し、その知的資源を活用して市民の高度で多様なニーズに応える生涯学習の機会を提供した。

【活動指標】

・対象　市民　⇒　延べ 283 人
・場所　東広島芸術文化ホールくららほか
・回数　20 回（5 講座 各講座 4 回連続）　⇒　20 回

【成果・課題】

広島大学マスターズの知的資源を活用し、市民に高度な学びの場を提供することができた。

今後は、講座テーマが固定化しつつあるため、より多くの市民の学びにつながるよう内容等を工夫する必要がある。

④　「生涯学習サテライトキャンパス講座」の開催（440 千円）

市内大学の教授等が講師となり、専門的な内容を学ぶことができる講座を各地域で開催した。

【活動指標】

・対象　市民　⇒　延べ 563 人
・場所　生涯学習センター、地域センター等
・回数　18 回　⇒　18 回

【成果・課題】

市内大学の教授等を講師として、子育て中の親子から高齢者まで幅広い年齢層を対象に、様々な地域で専門的な内容を学ぶ機会を提供することができた。今後も、地域課題も踏まえて各地域で専門的な学びに触れることができる機会を提供する必要がある。

東広島学

ボランティア発見講座

生涯学習サテライトキャンパス

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	6　市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり
施策の将来の目標像	市民が主体となった学習活動が活発になり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境が形成されています。また、東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化されています。		

施策の数値目標	指標	現状値（Ｒ１年度）	目標値（Ｒ６年度）
	生涯学習の満足度	61.5%	80.0%

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	①　生涯を通じて地域で学び、活躍できる環境の整備	主管部局・所属	生涯学習部　生涯学習課
関係部局・所属			

3　目指す姿と戦略

目指す姿	市民自ら生涯を通じて学び、活躍できる環境が整っている	現状	市民が主体的に学び、その成果を活かすことのできる学習環境が整備されていない

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
全ての市民にとって魅力ある図書館を整える必要がある	社会情勢や利用ニーズを踏まえた図書館の環境づくり	中	1
学びの循環を促す必要がある	豊かな学びへの支援と学びを通じたつながりの推進	中	2
学びを支える環境づくりが必要	学びを支える環境づくり	低	3

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）		目標値及び実績値 R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	生涯学習センター・地域センター等における自主サークル数	664		680	690	700	700	団体
		（　H30　）		663	683		（　R5　）	
				97.5%	99.0%		97.6%	
(ｲ)	レファレンス件数	7,958	上段：目標値	8,342	8,470	8,600	8,600	件
		（　H30　）	中段：実績値	3,532	5,591		（　R5　）	
			下段：達成率	42.3%	66.0%		65.0%	
(ｳ)		（　　）						
							（　　）	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	決算額	人件費
		一般財源	一般財源	
	R　年	694,640	636,426	
	3　度	606,536	563,196	
	R　年	692,762	625,557	57,532千円
	4　度	575,781	538,762	

６　戦略を構成する事務事業　　（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･5･4 図書館管理運営事業	生涯学習課	2.48	391,388 380,550	355,971 338,076
2-1	10･5･2 生涯学習活動推進事業	生涯学習課	5.15	97,140 75,606	92,948 76,468
3-1	10･5･2 生涯学習施設管理運営事業	生涯学習課	1.50	206,112 180,270	243,843 211,013
合計			9.13	694,640 636,426	692,762 625,557

７　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）　※決算額には繰越を含む。

差額	67,205千円	分析	主に生涯学習施設の工事請負費等の入札残による

８　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	82.5%	分析	コロナ禍においても自主サークル数は順調に伸びているが、レファレンス件数は図書館の閲覧座席数制限などにより来館者数が伸びず目標値に達しなかった。

９　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	自主サークルの増加等に伴い地域の学びが促進された。図書館の特徴化をふまえた環境整備など、豊かな学びへの支援、利用ニーズをふまえた学びの環境づくりを進めたことは、適切であった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	移動図書館車による配送スケジュール組み換え等により、指定管理業務の範囲内で出張型図書館サービスとして志和アグリ図書館を開設できた。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染防止対策により、定員の縮小や一部で主催事業の中止などがあった。 図書館の来館者数は前年比12%増と回復傾向は見られたものの、なお新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、コロナ禍前の80%程度にとどまっている。

１０　総合評価

総合評価	A	＜総評＞ 学びのキャンパス推進事業における行動計画において、7つの戦略（大学連携、人づくり、文化芸術、理系イノベーション、健康、主体的な学び、環境）及び施設の特徴化（ホール、図書館）の方針を策定することで、本市の生涯学習の方向性を明確にすることができた。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
学びの環境については、地域によって異なることからICT技術の活用や施設の特徴化などによる環境づくりを促進する必要がある。	→	学びを実践につなげ、市民が地域で活躍できるようオンラインを活用した学びの機会の提供や電子図書館の利用促進、地域資源･施設の特徴を活かした取り組みを行っていく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	6　市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり	①　生涯を通じて地域で学び、活躍できる環境の整備

事業の概要				
戦略	1	社会情勢や利用ニーズを踏まえた図書館の環境づくり	予算　355,971 千円	決算　338,076 千円
事務事業	1-1	図書館管理運営事業	予算　355,971 千円	決算　338,076 千円

内容

1-1_図書館の管理運営

貸出返却やレファレンス（調査相談）のサービスに加え、地域の情報拠点として市民の課題解決に必要な幅広い資料を収集・整理し、ＩＣＴを活用したサービスを提供するとともに、市民と市民、市民と情報など様々なつながりを深める場としての機能の充実を図った。

①　図書館の指定管理者による管理運営（298,581 千円）

【対象】市立図書館全７館（中央図書館、サンスクエア児童青少年図書館、黒瀬図書館、福富図書館、豊栄図書館、河内こども図書館、安芸津図書館）

②　施設の改修等（15,464 千円）

ア　中央図書館ＬＥＤ照明設備改修工事

水銀灯 72 灯をＬＥＤ照明に更新

③　特色ある図書館づくりとＤＸ推進

【新】ア　図書館の特色化をふまえた環境整備　（566 千円）

(ｱ) 志和アグリ図書館の設置

園芸センター内に農業関係の図書資料などを約 1,000 冊配本し、出張図書館によるサービスポイントを整備した。

開設：R4 年 7 月 12 日

閲覧可能時間：9 時～16 時 30 分（土・日、祝日、年末年始を除く）

出張図書館開設時間（貸出等可能）：第 2・4 火曜日 10 時～13 時

実績：来館者数 1,771 人

貸出冊数 180 冊

(ｲ) （仮）西高屋情報ラウンジの設計　（翌年度繰越 11,000 千円）

西高屋駅交通結節点改善事業全体の設計スケジュールとの調整及び学生等の意見を活かした内装の実施設計を行うため、施設の内装・設備機器の設計業務委託期間をＲ５年度まで延長した。

事業の概要

【新】イ　電子図書館の利用促進　（6,155 千円）

図書館基幹システムと電子図書館システムを連携させ、蔵書検索、利用者登録、予約連絡通知などを一元化し、サービス向上と事務効率向上を図った。

【活動指標】

・書籍約７３万冊と電子書籍約２千冊の書誌データの統合

【成果・課題】

電子図書館貸出回数は 7,413 回（前年比 1.4 倍）となり、電子図書館の利用を増やすことができた。

今後は、音声読み上げ機能や文字拡大機能などの特性の活用も含め、利用促進のための周知拡大に取り組む必要がある。

電子図書館トップページ

事業の概要			
戦略	2　豊かな学びへの支援と学びを通じたつながりづくりの推進	予算　92,948 千円	決算　76,468 千円
事務事業	2-1　生涯学習活動推進事業	予算　92,948 千円	決算　76,468 千円

内容

2-1_生涯学習活動の推進

多様で変化する学習ニーズや少子高齢化の進展など、現代的・社会的課題に対応するための学習機会を提供した。

① 人権に関する学習機会の充実（332 千円）

ア 人権講座の開催（うち 271 千円）

人権尊重の理念が日常生活に根付くように多様な学習機会を提供した。

【活動指標】

・対象　市民
・場所　生涯学習センター及び地域センター等
・内容　人権尊重の意識の高揚を醸成する講座を開催
・回数　42 回 ⇒ 55 回

イ 人権教育研修会の開催等（うち 61 千円）

人権教育研修会の開催や県主催の人権教育指導者研修会への参加を促し、指導者の養成及びその資質の向上を図った。

【活動指標】

・対象　市職員及び地域センター職員
・場所　広島県立総合体育館ほか
・内容　研修会の提供等、人権講座の学習プログラムの企画・立案
・回数　4 回 ⇒ 4 回

【成果・課題】

生涯学習（支援）センター及び地域センター等において、日常生活における身近な人権課題として、男女共同参画や国際理解など地域性や社会課題に沿ったテーマで講座を実施し、自分事として人権感覚を身に付け、人権を尊重する契機とすることができた。

今後は、人権講座は参加者が限られるため、他のイベント等と組み合わせて人権学習を取り入れるなど、一人でも多くの人の参加が得られるよう、引き続き実施方法を工夫し、より多くの市民の人権意識の醸成に取り組む必要がある。

事業の概要

② 家庭教育支援講座の開催（584 千円）

ア 「親の力」をまなびあう学習プログラム等の開催（うち 275 千円）

保護者をはじめ、あらゆる人がそれぞれの立場で「子育て力」を身につけた。

【活動指標】

・対象 市民
・場所 市内公共施設等
・内容 「自ら気づき学ぶことができる力」を高め、「話のきっかけ」「対話のツール」として開発された参加体験型学習プログラムを開催
・回数 40 回 ⇒ 40 回

保育所での実施

イ ブックデビュー推進講座等の開催（うち 309 千円）

妊娠期からのことばがけの大切さを伝え、あかちゃんのことば（手話、声、しぐさ、表情、目線を含む）の獲得を支援した。

【活動指標】

・対象 保護者及び妊産婦・配偶者、ブックデビューを支援したい人
・場所 地域すくすくサポート等
・内容 絵本などを活用して、図書館や様々な子育て支援事業と連携しながら講座等を開催
・回数 88 回 ⇒ 62 回
（内訳 講座 57 回、研修 5 回
参加者数 講座：429 組、研修 166 人）

ブックデビュー推進講座

【成果・課題】

日常生活 10 圏域全ての地域において講座を実施することにより、保護者自身の子育て力の向上のほか、講座を運営するファシリテーターのネットワークの構築につながっている。

親が身近な人から子育てを学んだり助け合う機会の減少などにより、子育てなどにおいて家庭内だけでは解決できない課題があるため、他部局との連携を図りながら、より各地域で家庭における子育て力の向上につながるよう取組む必要がある。

③ 生涯学習講座等の開催（20,096 千円）

ア 東広島熟年マイスター教育講座の開催（うち 316 千円）

人生 100 年時代を見据え、高齢者を対象に様々な社会問題を体系的に学ぶ講座を行った。

事業の概要

【活動指標】

・対象　市民（65 歳以上）

・場所　東広島芸術文化ホールくららほか

・内容　認知症予防、特殊詐欺対策等の現代的課題や健康・スポーツ、地域共生などテーマごとに講座を開催

・回数　30 回 ⇒ 40 回（4 コース　各 10 回連続）

ウォーキング

修了式

イ 主催講座の開催（うち 19,628 千円）

生涯学習（支援）センター及び地域センター等が地域の課題に応じた講座等を開催した。

【活動指標】

・対象　市民

・場所　生涯学習センター及び地域センター等

・内容　地域で抱える課題を解決するための学習機会として講座を開催

・回数　4,500 回　⇒　2,817 回

夏休み宿題おたすけ会

ウ 出前講座の実施（うち 152 千円）

市民団体の求めに応じて、市または協力機関（公的機関・団体）の職員等が講師となり地域へ出向いて講座を実施した。

【活動指標】

・対象　市内に在住、在勤、在学している 10 人以上の団体

・場所　市内公共施設ほか

・内容　市や協力機関（公的機関、団体）より提供する学習メニューから関心のある内容を申し込む

・回数　250 回　⇒ 272 回

【成果・課題】

継続するコロナ禍において、熟年マイスター教育講座では、新たにウォーキング指導者養成に向けたコースを増設しており、主催講座では、一部で中止となった講座はあったものの、各地域で多様な学びの機会を提供することができた。

今後は、学びを地域での活動に活かしてもらうため、講座内容について、個人や地域が抱える課題を知り、解決するための学習機会として内容の充実に取り組む必要がある。

④　生涯学習推進体制の充実と資質の向上（36,725 千円）

ア 生涯学習推進員等の配置（うち 36,416 千円）

地域の学びを支援する体制を構築した。

生涯学習推進員（11 人）、社会教育指導員（2 人）、生涯学習相談員（1 人）等の配置。

イ 社会教育関係等研修会の開催等（うち 309 千円）

講座の企画等に必要な知識・技能等に関する実践的な研修の開催や県主催の研修会への参加を促し、専門性の向上と関係職員の連携を図った。

【活動指標】

・対象　生涯学習センター及び地域センター職員等
・場所　市役所、県立生涯学習センター等
・内容　職務の専門性を発揮できる資質・技能の向上（人材育成）とともに、関係職員間のネットワークを構築
・回数　14 回 ⇒ 26 回

【成果・課題】

様々なテーマの研修を実施することで、地域での講座の企画運営等に生かすことができた。

今後は、これらの研修を地域の学びにつなげ、個々の学びを地域での活動等に促すことができるよう、職員の育成など更なる体制強化を図る必要がある。

⑤　学習成果を発表する機会の充実と主体的な学びの促進（8,341 千円）

ア 生涯学習フェスティバルの開催（うち 5,499 千円）

生涯学習活動の成果・発表や市民相互の交流の場を全市的な規模で提供することで、主体的に学習する意欲を高め、学習活動への参加を促進した。

【成果・課題】

地域での学びに繋がるよう会場での開催とともに、オンラインも活用して様々な学びを発信することができた。コロナ感染防止対策として、事前申し込みが必要な講座が多かったため、今後は会場を訪れた方がその場で体験できる講座等を増やし、学びのきっかけづくりを提供するとともに、市民相互の交流が図れるよう取り組む必要がある。

イ 講座・サークルガイドブックの発行（うち 622 千円）

講座、イベントなど様々な生涯学習情報を集め、冊子やホームページ等で紹介し、広く市民へ提供した。（年 1 回発行）

ウ 生涯学習パスポートの活用（うち 1,927 千円）

(ｱ) 【大人版】生涯学習パスポート

学習者個人が学習目標を立て学習記録をつけることで、学んだ成果を実社会で活かせるよう取り組んだ。

・奨励者数 167 人

(ｲ) 【子ども版】まなぶちゃんノート（小学校）、ジュニアパスポート（中学校）

学校外の学習活動、ボランティア、地域活動等を記録することで、児童・生徒の学校外での様々な体験活動を促進し、その経験を学校内での学びに活かせるよう取り組んだ。

・奨励者数 3,153 人

まなぶちゃんノート

エ ボランティア活動の推進（うち 228 千円）

本市のボランティア活動の推進とともに、様々なボランティア活動への理解とネットワークの強化を図り、市民参画によるまちづくりへの発展等を目指し、交流会を実施した。

・生涯学習ボランティア・市民活動交流会
R5.2 開催　参加 48 人

ボランティア交流会

オ 市民企画講座の実施（うち 65 千円）

市民の学習意欲の向上及び地域への普及が期待される講座を企画募集し、企画者が主体となって実施できるよう講座の運営支援を行った。

・3 講座 6 回実施（応募 23 講座）延べ 89 人参加

事業の概要

子どもとすうがくの出会い講座

緩めて鍛える健康法講座

⑥　社会教育関係機関等への負担・補助（564 千円）

ア　社会教育関係機関への負担金（うち 275 千円）

広島県公民館連合会負担金　　245 千円

全国生涯学習市町村協議会年会費　30 千円

イ　ボランティア活動への支援（うち 289 千円）

新型コロナウイルス感染症の感染防止に資するボランティア活動へ補助金を交付した。

・交付 4 団体

【新】⑦　市全体を「学びのキャンパス」の推進に向けた基礎調査と既存事業の強化（9, 826 千円）

ア　「学びのキャンパス推進」に向けた基礎調査の実施（うち 9, 347 千円）

市全体が学びのキャンパスとなり、「学び」が「実践」につながる好循環を育むための調査を行い、行動計画を策定した。

・調査概要

全国の実態調査ほか、市民アンケート、施設利用者アンケート、関係団体ヒアリングにより、生涯学習活動の実態、各施設の利用状況、施設不足状況などを調査。

・調査期間

令和４年７月～８月で基礎調査を実施

・行動計画

基礎調査及び分析後、学びの戦略的取組として「学びのキャンパス推進事業における行動計画」策定（令和５年３月２３日）

イ　学びのキャンパス認定制度の調査及び試行

一定の講習認定を受けた民間（市民）主催講座に、市主催同等講座の認証を与えることを予定としていたが、公益財団法人東広島市教育文化事業団の体制強化とあわせて検討することとし、中止した。

ウ　黒瀬生涯学習センター文化活動振興事業の実施（うち 479 千円）

黒瀬生涯学習センターの機能特徴化に向け、施設全体を有効活用しながら地域の特徴に合う文化発表及び芸術鑑賞に関する主催事業を実施した。

・黒瀬アート展、黒瀬キッズ＆スチューデントＤＡＹ、黒瀬音楽祭

の概要			
戦略	3　学びを支える環境づくり	予算　243,843 千円	決算　211,013 千円
事務事業	3-1　生涯学習施設管理運営事業	予算　243,843 千円	決算　211,013 千円

内容

3-1_生涯学習施設の管理運営

市民文化センター（指定管理）、黒瀬生涯学習センター、豊栄生涯学習センター、安芸津生涯学習センター、創作村、視聴覚ライブラリー、天文台広場の管理運営を行った。

①施設の改修等工事　（70,755 千円）

ア　市民文化センター空調設備更新工事

イ　志和生涯学習センター解体工事

②舞台照明設備の更新

ア　黒瀬生涯学習センター舞台照明設備更新

賃貸借料 114,972 千円（R5.4～120 か月）

黒瀬生涯学習センターせせらぎホール

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	6　市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり
施策の将来の目標像	市民が主体となった学習活動が活発になり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境が形成されています。また、東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化されています。		

施策の数値目標	指標	現状値（Ｒ１年度）	目標値（Ｒ６年度）
	生涯学習の満足度	61.5%	80.0%

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	②　芸術文化活動の活性化と歴史・文化の伝承	主管部局・所属	生涯学習部　　文化課
関係部局・所属			

3　目指す姿と戦略

目指す姿	東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化	現状	芸術文化関連施設及び文化財関連イベント等の利用者が低迷している。

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
文化芸術の魅力に触れる機会の提供を増やす必要がある。	芸術文化活動の活性化と創造	中	1
文化財に対する保護意識の高揚と公開の環境を整える必要がある。	文化財の保護と活用	中	2

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）		目標値及び実績値 R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	市民から要請があり講師派遣等を行った回数	17	上段：目標値	20	21	22	23	回
		（　R1　）	中段：実績値	22	17		（　R6　）	
			下段：達成率	110.0%	81.0%		73.9%	
(ｲ)	芸術文化ホールくらの若者の利用率	22		26.2	28.3	30.4	32.5	%
		（　R1　）		31	19		（　R6　）	
				118.3%	67.1%		58.5%	
(ｳ)	美術館満足度	72		74	76	78	80	%
		（　R2　）		80	82		（　R6　）	
				107.7%	108.4%		103.0%	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	決算額	人件費
		一般財源	一般財源	
	R　年	630,376	547,483	
	3　度	571,412	532,937	
	R　年	595,435	554,481	152,082千円
	4　度	538,290	524,590	

6　戦略を構成する事務事業

（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･5･1 芸術文化振興事業	文化課	2.01	243,427 250,883	274,335 282,487
1-2	10･5･3 美術館管理運営事業	文化課	4.92	249,680 227,488	192,064 196,260
2-1	10･5･5 文化財保存活用事業	文化課	2.62	43,144 38,673	33,787 23,269
2-2	10･5･5 文化財施設等整備事業	文化課	2.14	68,346 11,943	54,119 30,140
2-3	10･5･5 東広島市史編さん事業	文化課	4.58	3,120 1,532	17,228 5,848
2-4	10･5･5 埋蔵文化財調査事業	文化課	5.41	9,386 4,835	9,528 3,767
2-5	10･5･5 出土文化財管理活用事業	文化課	2.46	13,273 12,129	14,374 12,710
合計			24.14	630,376 547,483	595,435 554,481

7　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）

※決算額には繰越を含む。

差額	40,954千円	分析	主に、新文化財センター設計の仕様の見直しによる入札残及び設計費の繰越、歴史的資料のデジタル化業務の入札残等による残額による。

8　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	85.5%	分析	新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に解消しつつあるものの、市民のマインドは、まだコロナ禍前の水準に戻っていないことが窺え、そのことが達成率に影響している。

9　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	ニーズを踏まえ質の高い文化事業を開催し、文化芸術活動の活性化に取り組んだ。また、市史編さん室を設置するなど、歴史文化の伝承を促進できる環境づくりを進めた。いずれの取組とも目的達成に向け適切なものであった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	各取組とも可能な部分は既に指定管理及び委託としており、効率化を図っている。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に解消しつつあるが、市民のマインドは、まだコロナ禍前の水準に戻っておらず、来場者数に影響が及んだ事業もあった。

１０　総合評価

総合評価	B	＜総評＞ ･文化財の保存活用に関しては、町並み保存の取組みなど長期的に着実な成果を積み重ねつつある。また、文化芸術の振興については、アーツコンシェルジェを導入し、文化芸術活動に参加したいと考える市民に活動の場を提供することができたが、芸術文化ホールくらら の若者の利用率が、前年度より減少した。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
歴史文化を伝承させる各種イベントや、芸術活動を活性化させるためコンサート等は、全体的に参加者の満足度は高い。しかし、若者の参加者数が低調な事業もあり、発信力のある広報活動が行われていない可能性がある。	→	歴史文化及び芸術活動に関心のある市民の要望を把握し、多角的に分析したうえで、ホームページ、SNS等の各種メディアを活用して魅力あるイベント情報を発信する。また新設したアーツコンシェルジュを積極的に活用してもらう。歴史文化の伝承については引き続き地域と連携した活動を検討していく。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	6　市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり	②　芸術文化活動の活性化と歴史・文化の伝承

事業の概要			
戦略	1　芸術文化活動の活性化と創造	予算　466,399 千円	決算　478,747 千円
事務事業	1-1　芸術文化振興事業	予算　274,335 千円	決算　282,487 千円

内容

1-1_芸術文化の振興

① 芸術文化の振興 （282, 487 千円）

ア 芸術文化ホールの管理運営 （275, 201 千円）

芸術文化活動の中核施設として、東広島芸術文化ホールくららの管理運営を行った。

(ｱ) 指定管理による管理運営（うち 233,199 千円）

指定管理により、東広島芸術文化ホールくららの維持管理運営を行った。

(ｲ) 施設管理運営等（うち 42,002 千円）

東広島芸術文化ホールくららの施設の維持管理や事業運営等を行った。

a 維持管理（うち 25,055 千円）

くららの舞台・音響・照明の機器の長寿命化計画に基づく修繕や新型コロナウイルス感染症防止対策を行った。

【拡】 b 芸術文化ホール自主事業等（うち 16,947 千円）

市民に芸術活動の場を提供するアーツコンシェルジュを導入するとともに、自主事業等の拡充支援を行うことで、コロナ禍で低迷していた芸術文化活動の活性化やくららへの来館者の回復を図った。

【活動指標】

フルオーケストラの実施回数

2 回　⇒　2 回

・ＮＨＫ交響楽団

令和 4 年 7 月 24 日　818 人

・広島交響楽団

令和 4 年 11 月 13 日　696 人

くらら大ホール

【成果・課題】

ＮＨＫ交響楽団及び広島交響楽団とも観客の満足度が高く、アンケート調査でも多くの方から高い評価をいただいている。今後もフルオーケストラ事業など市民の興味が高い鑑賞事業を実施していく必要がある。

事業の概要

イ　地域芸術の育成　（7,286 千円）

地域の自主的な文化芸術活動を後援し、地域文化の創造を支援した。

市民ミュージカル

(ｱ) 芸術文化活動の支援（うち 2,628 千円）

市民が主体的に行う文化事業の後援を行うとともに、東広島市文化連盟活動団体に助成を行った。

【活動指標】

後援回数　100 件⇒　121 件

(ｲ) 芸術文化活動の推進（うち 4,658 千円）

けんみん文化祭を開催し、芸術文化活動の推進等に関することを行った。

けんみん文化祭地区フェスティバル

・東広島地区フェスティバル

令和 4 年 11 月 5 日

くららホール(西条)　参加者数 750 人

・東広島分野別フェスティバル

令和 4 年 11 月 27 日

黒瀬生涯学習センター(黒瀬)　参加者数 500 人

【活動指標】

けんみん文化祭の開催(分野別・地区)　各 1 回　⇒　各 1 回

【成果・課題】

コロナ禍にあっても、文化連盟活動団体への助成やけんみん文化祭の開催を通じて芸術文化活動が活発に行われた。今後も、文化連盟等の団体が継続的に活動していくには、若者の参加を促す必要である。

事業の概要			
戦略	1　芸術文化活動の活性化と創造	予算　466,399 千円	決算　478,747 千円
事務事業	1-2　美術館管理運営事業	予算　192,064 千円	決算　196,260 千円

内容

1-2_美術館の管理運営

①　美術館の管理運営（196,260 千円）

ア　特別企画展の開催（51,682 千円）

(ｱ) グランマ・モーゼス展（うち 29,996 千円）

アメリカの国民的画家グランマ・モーゼスの生誕 160 年を記念して開催した。

会期：令和 4 年 4 月 12 日～5 月 22 日

観覧者数 9,560 人

アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス ≪アップル・バター作り≫ １９４７年　© 2020, Grandma Moses Properties Co.,NY

グランマ・モーゼス展の作品

(ｲ) 近代西洋美術の巨匠たち（うち 16,584 千円）

モネ、ルノワール、ゴッホ、ピカソ等 19 世紀から 20 世紀のヨーロッパを代表する作家たちの作品を厳選し、印象派からキュビズムまでの近代絵画の魅力を紹介した。

会期：令和 5 年 2 月 14 日～3 月 26 日

観覧者数 12,177 人

近代西洋美術の巨匠たちの様子

(ｳ) 東広島市美術展の開催　（うち 5,102 千円）

造形芸術活動の発表の場として、市民から公募した作品を展示する東広島市美術展を開催した。また、「市民美術の日（仮）」の開催に向けて検討を行った。

【活動指標】

東広島市美術展の応募数

一般部門 200 点　⇒　193 点

ジュニア部門 500 点　⇒　726 点

市美術展ジュニア部門の様子

【成果・課題】

東広島市美術展の一般部門では、活動指標を若干下回る応募数であったが、ジュニア部門では活動指標を大幅に上回る応募数があった。

引き続き多くの市民に応募してもらえるよう、魅力的な運営を行っていく必要がある。

事業の概要

イ　指定管理者による美術館の管理運営　（122,626 千円）

指定管理者により、美術館の維持管理及び特別展を含む企画展の開催を行った。

【活動指標】

常設展等の開催回数　5 回　⇒　8 回

【成果・課題】

「近代西洋美術の巨匠たち」展では美術史上の重要な作家たちの作品が展覧され、12,000 人を超える観覧者があった。

引き続き、集客も期待できる魅力的な展覧会を企画する必要がある。

ウ　芸術文化振興基金への積立（10,065 千円）

芸術文化振興基金へ元金及び利子の積み立てを行った。

エ　美術品購入（9,680 千円）

美術品収集基本方針に基づき、ゼロ・ヒガシダ氏の作品 3 点を購入した。

・彫刻　ゼロ・ヒガシダ《寂 SABI KIYOMORI TAIRA》ほか 2 点

寂 SABI KIYOMORI TAIRA

（高さ 53×横幅 44×奥行 27 ㎝）

オ　所蔵作品の管理ほか　（2,207 千円）

作品収集（購入、寄贈・寄託）のための調査研究と所蔵作品の調査研究及び美術館の管理運営を行った。

※美術品購入 3 点、寄贈 67 点（うち 8 点は美術資料）、所管替え 2 点

事業の概要			
戦略	2　文化財の保護と活用	予算　129,036 千円	決算　75,734 千円
事務事業	2-1　文化財保存活用事業	予算　33,787 千円	決算　23,269 千円

内容

2-1_文化財の保存及び活用

① 指定文化財等の管理活用（20,093 千円）

・指定文化財等の保存活用及び維持管理、公開活用として、伝統的建造物群保存地区決定の推進等を実施した。

・指定文化財所有者に対する保存修理の助成　※助成件数 3 件

ア 伝統的建造物群保存地区決定の推進（うち 451 千円）

西条酒蔵通り地区の伝統的建造物群保存地区決定を推進するため、伝統的建造物群保存地区保存審議会を開催し、保存活用計画案を検討し、地域住民・地権者に対する説明会を実施した。

経緯と予定

R3	条例制定、審議会設置
R4	審議会開催、エリア設定・保存活用計画案の検討
R5～R6	地元合意形成
R7～	都市計画決定、保存活用計画の策定

酒蔵通り遠景（東から）

酒蔵通りの町家群

イ オオサンショウウオの宿管理運営 （うち 923 千円）

国の特別天然記念物オオサンショウウオは、豊栄町内で営巣、産卵が継続的に観察され、全国的にも貴重な繁殖地域として知られている。

生育環境の変化による生息状況の悪化から、オオサンショウウオを一時的に保護する施設「オオサンショウウオの宿」の管理運営を行った。

・オオサンショウウオの宿で痩せ個体を保護し、回復後、放流した。

※実績（R4 年度末時点）

保護：成体 4 匹　幼生 57 匹

放流：成体 3 匹

その他、広島市からの交雑種 3 匹、中国種 1 匹を受入れた。

オオサンショウウオの宿説明板

事業の概要

ウ　文化財関連施設の維持管理（うち 14,309 千円）

歴史民俗資料館や文化財収蔵庫等、既存の建物・土地の維持管理を実施した。

エ　歴史文化基本構想策定委員会の開催（うち 265 千円）

歴史文化基本構想策定委員会を開催するために市内全域の未指定文化財の調査及びリストを作成した。

調査の様子（志和町奥屋）

オ　指定文化財等の管理活用（うち 4,145 千円）

市内に所在する指定文化財等を後世に適切に伝えていくための維持管理及び、指定文化財を広く公開し、活用を図った。

【活動指標】

指定等文化財環境整備　　72 件　⇒　71 件

【成果・課題】

市の天然記念物である飯田のナシが台風による倒木のため、指定文化財が 1 件減となった。

安芸国分寺歴史公園

登録有形文化財 時報塔

②　文化財の調査と保護（3,176 千円）

ア　文化財保護審議会の開催（うち 620 千円）

文化財保護審議委員会（委員 16 人、うち臨時委員 1 人）

文化財の保存活用に関する諮問機関として、市内に所在する各種の文化財のうち、重要なものについて指定・登録等の保護の措置を執るため、調査・審議を行った。

【活動指標】

市指定文化財諮問　1 件以上　⇒　審議中 2 件

【成果・課題】

調査部会において、継続審議する案件が２件あり、今後、これらを指定文化財として保護し、活用するため、諮問を行う必要がある。

福成寺仁王門（西条町下三永）

二馬手製塩遺跡（安芸津町木谷）

イ　文化財基礎調査（うち 2,556 千円）

市内に所在する各種文化財について悉皆調査を行い、必要な保護の措置がとれるよう実態の把握を進めた。

R4 実施の調査

〇近代建築

〇社寺建築

柄酒造（安芸津町三津）

【活動指標】

近代建築調査を 30 棟以上、うちヘリテージマネージャーによるもの 3 棟以上

⇒　25 棟（うちヘリテージマネージャーによるもの 0 棟）

【成果・課題】

近代建築の調査については、所有者との調整が難航したため、目標を下回った。所有者の理解を得るため、文化財の重要性等について丁寧な説明を行う必要がある。

※ヘリテージマネージャーとは

広島県建築士会が実施している、歴史的建造物保存活用資格者の登録制度。地域に眠る歴史的文化遺産を発見し、保存し、まちづくりに活かす能力を持った人材のこと。

事業の概要			
戦略	2　文化財の保護と活用	予算　129,036 千円	決算　75,734 千円
事務事業	2-2　文化財施設等整備事業	予算　54,119 千円	決算　30,140 千円

内容

2-2_文化財施設等の整備

令和 3 年度に続いて、(仮称) 新文化財センターの整備を進めた。また、市所有文化財施設の修繕等を行った。

スケジュール

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8
新文化財センター	設計	設計	設計	改修工事	移転供用開始	
付帯工事等					三永資料館移築設計	既存施設撤去工事 三永資料館移築工事

① （仮称）新文化財センターの整備（2,192 千円）

（うち R3 年度から繰越分 2,118 千円）

旧久芳小学校跡地に（仮称）新文化財センターを整備するため、設計業務に着手した。

② 史跡鏡山城跡の災害復旧（26,362 千円）

平成 30 年 7 月豪雨で被災した史跡鏡山城跡の復旧工事を行った。

史跡鏡山城跡遠景

史跡鏡山城跡復旧工事

③ 文化財説明板、案内標識等の新設等（1,586 千円）

登録有形文化財榎野家住宅等の指定・登録文化財の説明板、案内標識の設置及び既設説明板、標識等の修繕を実施し、見学者の利便性向上を図った。

旧久芳小学校跡地

安芸国分寺歴史公園説明板

【活動指標】

指定等文化財案内標識　2 基　⇒　2 基

指定等文化財説明板　　3 基　⇒　3 基

【成果・課題】

文化財説明版、案内標識ともに、目標通り設置することができた。既存の説明版等についても、見学者の利便性を損なわないよう、定期的な点検が必要である。

事業の概要			
戦略	2　文化財の保護と活用	予算　129,036 千円	決算　75,734 千円
事務事業	2-3　東広島市史編さん事業	予算　17,228 千円	決算　5,848 千円

内容

2-3_東広島市史の編さん

市民の郷土愛醸成のため、『東広島市史』の発刊事業を進めた。令和 4 年度は、市制施行 50 周年を迎える令和 6 年度の第 1 回配本に向け、資料調査を実施した。

①市史編さん委員会等の開催（221 千円）

ア　市史編さん委員会の開催（うち 155 千円）

編さん基本方針を策定し、執筆者専門部会を設置した。

イ　編集部会の開催

市史編さん委員会において編集方針の検討を行った。

ウ　執筆者専門部会の開催（うち 66 千円）

「酒編」及び「教育編」の執筆方針について審議を行った

「市史編さんだより」

②市史編さんに係る資料調査等（5,627 千円）

ア　資料の調査及び収集（うち 2,780 千円）

市史編さんに必要な歴史資料の調査及び収集、写真撮影を実施した。

イ　史料のデジタル化（うち 2,752 千円）

市内に残る歴史資料について、デジタルデータ化を行い、市史編さん資料として活用した。

【活動指標】

資料のデジタルデータ化　30,000 点⇒43,052 点

【成果・課題】

令和 4 年度は酒造関係資料についてデジタルデータ化を進めることができた。今後は、広く紹介できるよう分析を進めていく必要がある。

ウ　研究及び広報普及（うち 95 千円）

「東広島市史編さんだより」を発行、配布し、事業の周知を図った。

【活動指標】

市史編さんだより発行　年 2 回⇒年 1 回

【成果・課題】

「市史編さんだより」は、資料調査に時間を要し、創刊号の発行にとどまった。今後は、定期的に編さんの進捗や調査成果を報告することで、東広島市史への関心を喚起し、市民からの地域に関する情報提供につなげていくことが必要である

事業の概要			
戦略	2　文化財の保護と活用	予算　129,036 千円	決算　75,734 千円
事務事業	2-4　埋蔵文化財調査事業	予算　9,528 千円	決算　3,767 千円

内容

2-4_埋蔵文化財の調査

① 埋蔵文化財の調査（3,767 千円）

ア 埋蔵文化財の保存と調整

開発等によって、埋蔵文化財（遺跡）が破壊されることを防ぐため、事前にその取扱いについて調査及び指導・助言した。

・分布・試掘調査等

事前協議：1,643 件（前年度：1,345 件）

試掘調査：52 件（前年度：57 件、新発見の遺跡：1 か所）

・開発と遺跡保護の調整

工事届け：70 件（前年度：148 件）

イ 埋蔵文化財の発掘調査

必要に応じて、記録保存のための発掘調査を行い、出土した遺物及び図面・写真等を整理・収蔵し、調査・研究した。

・緊急的発掘調査

発掘調査：7 件（個人住宅の合併浄化槽調査含む）

負担金を伴う受託調査（整理作業）は 1 件

市事業課から委託された調査（2 件）は除く

・民間による発掘調査の監理及び指導・助言…市内全域：随時

県や大学、民間等の調査機関による発掘調査の監理：6 件

・出土品等の整理・収蔵、調査・研究を行った。

発掘調査の様子

整理作業の様子

事業の概要			
戦略	2　文化財の保護と活用	予算　129,036 千円	決算　75,734 千円
事務事業	2-5　出土文化財管理活用事業	予算　14,374 千円	決算　12,710 千円

内容

2-5_出土文化財の公開活用

①出土文化財の管理活用　(12,710 千円)

埋蔵文化財（遺跡）の存在の周知に努めるとともに、そこから出土する出土文化財（土器や石器等）を適切に保存・収蔵・管理するとともに、展示や講座等で市民向けに公開・活用を図った。

ア　常設展示・速報展示

市が保管する出土文化財を展示・公開した。

・常設展示、重要文化財指定記念展

出土文化財管理センター入館者：440 人（企画展第 1 期を含む）

イ　出土文化財企画展示

市が保管する出土文化財を様々なテーマで調査研究した成果を展示した。

・令和 4 年度出土文化財企画展【東広島の古墳】（来場者：741 人）

第 1 期　令和 5 年 1 月 7 日（土）～2 月 2 日（木）…(23 日間)138 人

会場：東広島市出土文化財管理センター・展示室

第 2 期　令和 5 年 2 月 8 日（水）～2 月 13 日（月）…(6 日間)603 人

会場：東広島芸術文化ホールくらら・市民ギャラリー

ウ　出土文化財報告会

市内で発掘調査を実施した遺跡の成果を、写真等を用いて報告した。

・出土文化財報告会　※公式 youtube で同時配信

令和 5 年 2 月 11 日（土）…（来場者：62 人、視聴者 20 人）

会場：東広島芸術文化ホールくらら・練習室

・見学会（来場者：104 人）

令和 4 年 12 月 17 日（土）：横田 1 号遺跡現地（西条町寺家）

エ　講座や解説依頼への対応

市民等からの講師派遣や各種講座、展示解説等の依頼へ対応した。

・講師として職員を派遣：5 団体 6 回（来場者計 131 人、オンライン 37 人）

・市事業団と共催による連続講座を開催（全 7 回：計 115 人）

オ　情報発信

広報誌やホームページ等で出土文化財の魅力を発信した。

・広報誌「東ひろしまの遺跡」1 冊を発行

・企画展の展示図録 1 冊、重要文化財指定記念展図録 1 冊を発行

「出土文化財報告会」の様子

「遺跡見学会」の様子

事業の概要

令和　4　年度　目的別事業群総括管理　（　決算　）シート

1　第五次東広島市総合計画に掲げる施策

まちづくり大綱	3　人づくり	施　策	6　市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり
施策の将来の目標像	市民が主体となった学習活動が活発になり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境が形成されています。また、東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化されています。		

施策の数値目標	指標	現状値（Ｒ１年度）	目標値（Ｒ６年度）
	生涯学習の満足度	61.5%	80%

2　目的別事業群の概要

目的別事業群名	③　生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成	主管部局・所属	生涯学習部　スポーツ振興課
関係部局・所属			

3　目指す姿と戦略

目指す姿	いつでも・どこでも・誰でも・地域でスポーツができる仕組みがあるまちになっています。	現状	スポーツに興味がある人は多いが、スポーツを習慣としている人の割合が低い。

課題	仮説に基づく戦略	寄与度	戦略No.
市民ニーズに合ったスポーツ施設の整備が必要である。	スポーツ施設等の整備運営	高	1
活動機会の提供によるスポーツ活動の習慣化及び指導者の育成が必要である。	スポーツ活動の普及振興	中	2
スポーツ団体及び個人への活動支援及び競技スポーツの振興が必要である。	スポーツの活動支援の充実	低	3

4　成果指標

成果指標		初期値（年度）	目標値及び実績値	R3	R4	R5	終期目標値（年度）達成率	単位
(ｱ)	週に1日以上スポーツする人の割合	35.6 （　H29　）		42.0	43.6	45	50	%
				42.8	50.4		（　R8　）	
				101.9%	115.6%		100.8%	
(ｲ)	スポーツ振興奨励金申請件数	151 （　H29　）	上段：目標値 中段：実績値 下段：達成率	156	161	166	171	人
				62	207		（　R8　）	
				39.7%	128.6%		121.1%	
(ｳ)		（　　）						
							（　　）	

5　コスト情報

目的別事業群事業費（千円）		当初予算額	決算額	人件費
		一般財源	一般財源	
	R　年 3　度	297,056	269,024	
		265,099	4,324	
	R　年 4　度	338,296	327,378	41,391千円
		245,525	241,686	

６　戦略を構成する事務事業　　（単位：千円）

No.	款・項・目 事務事業名	所属	人役	R3 当初予算額 R3 決算額	R4 当初予算額 R4 決算額
1-1	10･6･2 スポーツ施設管理運営事業	スポーツ振興課	1.55	181,822 177,307	180,894 188,483
1-2	10･6･2 スポーツ施設整備事業	スポーツ振興課	1.25	66,044 52,275	106,788 92,434
2-1	10･6･1 スポーツ活動活性化事業	スポーツ振興課	2.10	38,607 33,378	39,393 36,194
3-1	10･6･1 スポーツ活動支援事業	スポーツ振興課	1.67	10,583 6,064	11,221 10,267
合計			6.57	297,056 269,024	338,296 327,378

７　Ｒ４事業費の分析（差額＝「Ｒ４年度当初予算額」－「Ｒ４年度決算額」）　※決算額には繰越を含む。

差額	10,918千円	分析	主に、施設整備事業における執行残が生じたこと、及び設計業務の一部において、業者の契約不履行により業務の繰越が発生したため。

８　Ｒ４成果指標の分析（成果指標の平均達成率）

平均達成率	122.1%	分析	多くの社会活動が再開される中で、ウォーキングや健康体操なども含めたスポーツ活動も活発に行われるようになり、目標達成に至った。

９　取組の分析

区分	分析ポイント	概要
妥当性	取組の目的･対象･手段の設定は、社会のニーズ等を踏まえ適切であったのか。	市民の週一日以上のスポーツ活動実施率向上を目標に、各種スポーツ教室やイベントを開催し、スポーツ施設を管理運営することとしている。社会活動も再開に向かう中で、概ね計画どおりに事業実施できたことも含めて、実施率向上に繋がった。
効率性	投入資源量、実施主体等を踏まえ、最も経済的･効率的な手段であったのか。	スポーツ教室やイベントは、業務委託や実行委員会形式による実施とし、また、スポーツ施設管理においても、大半の施設で指定管理制度による管理運営を行い、コスト削減に努めている。
外的要因	外的な要因による影響はあったのか。	Withコロナの考え方が浸透する中で、多くのスポーツ活動を再開した。活動再開に当たり工夫が必要であったが、市民の協力を得る中で、行事を実施することができた。

１０　総合評価

総合評価	A	＜総評＞ コロナ禍において、実施方法の工夫や参加定員の調整により、計画していた教室やイベントは、概ね実施することができた。施設運営や整備においても、概ね計画どおりの実施となった。

１１　今後の課題及び取組方針

課題		課題を踏まえた今後の取組方針
小学校の統廃合により、施設が不足している地域があることから、施設の特徴化などで施設を確保する必要がある。スポーツ活動の普及においては、更なるスポーツ活動実施率の向上に向け、地域単位の健康づくりを推進し、スポーツの裾野を広げる必要がある。	→	廃校体育館等未利用施設を、スポーツの特徴化･聖地化により活用し、今後も地域等の意向を踏まえ、新たな施設の特徴化･聖地化を検討する。スポーツ活動の普及では、各地域でのウォーキングなど健康づくり活動を推進するほか、スポーツの魅力づくりに向けトップアスリートの教室などを実施し、スポーツの裾野を広げるよう努める。

概要シート

まちづくり大綱	施策	目的別事業群
3　人づくり	6　市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり	③　生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成

事業の概要			
戦略	1　スポーツ施設等の整備運営	予算　287,682 千円	決算　280,917 千円
事務事業	1-1　スポーツ施設管理運営事業	予算　180,894 千円	決算　188,483 千円

内容

1-1_スポーツ施設の管理運営

①　スポーツ施設管理運営(188, 483 千円)

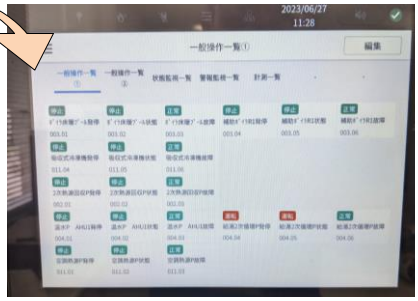
ア　スポーツ施設の修繕（うち 10, 931 千円）

各スポーツ施設において、安全に安心して活動できるように老朽化した設備及び施設の修繕を行った。

(ｱ) 設備修繕

黒瀬屋内プール集中管理パネル交換など設備の修繕を行った。

全体の集中管理パネル



集中管理パネルの拡大

(ｲ) 施設修繕

造賀コミュニティスポーツ広場防球ネットなどの修繕を行った。

事業の概要

イ　指定管理者による管理運営（うち 164,316 千円）

施設の配置が広範囲に及ぶことから、利用者の利便性に配慮した管理を行うため、指定管理者制度を活用し効率的かつ地域事情に適した維持管理を行った。

また、令和 4 年度においては、光熱費の高騰に伴い指定管理料を補填し、管理運営を行った。

【指定管理施設 23 カ所】　　（指）：指定管理施設

区分	名称	管理
体育館	豊栄市民体育館	
	河内スポーツアリーナ	（指）
プール	黒瀬屋内プール	（指）
	安宿区民プール	
	能良区民プール	
グラウンド	八本松市民グラウンド	（指）
	志和市民グラウンド	（指）
	黒瀬市民グラウンド	（指）
	黒瀬多目的グラウンド	（指）
	福富多目的グラウンド	（指）
	豊栄市民グラウンド	
	豊栄ふれあいグラウンド	
	河内市民グラウンド	（指）
	河戸区民グラウンド	
	入野区民グラウンド	（指）
	安芸津市民グラウンド	（指）

区分	名称	管理
コミュニティスポーツ広場	田口コミュニティスポーツ広場	（指）
	椛坂コミュニティスポーツ広場	（指）
	溝口コミュニティスポーツ広場	（指）
	造賀コミュニティスポーツ広場	（指）
	杵原上コミュニティスポーツ広場	（指）
	杵原下コミュニティスポーツ広場	（指）
	上戸野コミュニティスポーツ広場	（指）
	清武コミュニティスポーツ広場	（指）
	河内発祥園コミュニティスポーツ広場	（指）
テニスコート	豊栄テニスコート	
屋内球技場	豊栄屋内球技場	
キャンプ場	東広島市グリーンスポーツセンター	
海洋センター	東広島市黒瀬B&G海洋センター	（指）
	東広島市安芸津B&G海洋センター	（指）
パークゴルフ場	東広島市福富パークゴルフ場	（指）
	東広島市河内パークゴルフ場	（指）

事業の概要			
戦略	1　スポーツ施設等の整備運営	予算　287,682 千円	決算　280,917 千円
事務事業	1-2　スポーツ施設整備事業	予算　106,788 千円	決算　92,434 千円

内容

1-2_スポーツ施設の整備

①　スポーツ施設整備（92,434 千円）

ア　施設の整備（うち 40,070 千円）

（ｱ）福富多目的グラウンドトイレの整備

利用者の利便性を図るため、Ｂ球場にトイレを設置した。

新築したトイレ外観

新築したトイレの中

【新】（ｲ）黒瀬多目的グラウンド手洗い・水飲み場等の整備

グラウンド内に、新型コロナ感染症対策及び熱中症対策のため手洗い・水飲み場、簡易テント等を整備した。

新設した手洗い・水飲み場

イ　施設の解体（うち 27,545 千円）

令和２年１１月に廃止した区民プールの解体を行った。

（ｱ）清武西区民プールの解体

（ｲ）小田区民プールの解体

小田区民プール解体後

清武西区民プール解体後

事業の概要			
戦略	2　スポーツ活動の普及振興	予算　39,393 千円	決算　36,194 千円
事務事業	2-1　スポーツ活動活性化事業	予算　39,393 千円	決算　36,194 千円

内容

2-1_スポーツ活動の活性化

① スポーツ活動の充実（36,194 千円）

ア スポーツ教室の開催（うち 25,310 千円）

スポーツの振興に関する情報収集・調査研究並びに情報提供、生きがい健康体育大学や各種スポーツ教室等の開催、スポーツに関する備品・用具の貸出業務等を教育文化振興事業団に委託した。

(ｱ) ニュースポーツ教室の開催等

・開催期間：通年（４月～３月）
・場　所：東広島運動公園、黒瀬・安芸津Ｂ＆Ｇ海洋センター等
・教室数：21 イベント・教室（約 233 回）、参加者数：6,429 人

ニュースポーツ教室（グラウンド・ゴルフ）

健康体操教室

イ 各種スポーツイベントの開催（うち 7,395 千円）

市民のスポーツの振興及び競技力の向上、また市民の健康維持や世代間交流、地域の活性化を図ることを目的に開催される各種スポーツイベントに対し、事業費補助金を交付した。

(ｱ) 市民スポーツ大会（陸上の部及び球技の部）

・開催日：球技の部（６月５日）・陸上の部+ソフトボール（９月２５日）
※陸上競技場の災害復旧工事に伴い、両部を入れ替えて実施した。
・新競技：球技の部にペタンクを追加し、球技の部を４競技とした。
（ペタンクは、オープン競技とし、総合成績には加味しない。）
・場　所：東広島運動公園、福富多目的グラウンド及び河内スポーツアリーナ
・参加者：3,600 人（陸上：1,800 人、球技：1,800 人）

陸上の部（みんなでジャンプ）

球技の部（ソフトバレーボール）

事業の概要

(ｲ) 東ひろしま新春駅伝競走大会の開催

・開催日：１月７日（土）
・場　所：東広島運動公園陸上競技場発着近隣周回コース
・参加者：約 2,000 人

東ひろしま新春駅伝競走大会

(ｳ) ひろしま県央競歩大会の開催

・開催日：１１月２７日（日）
・場　所：東広島運動公園陸上競技場
・参加者：約 400 人

ひろしま県央競歩大会

(ｴ) トップアスリートふれあい事業（広島ドラゴンフライズの合宿受入）

トップアスリートとの交流を通して、競技スポーツへの関心を高め、競技力の向上及び競技人口の拡大を図ることを目的とし、事業費補助金を交付することとしていたが、中止となった。

・当初計画：小学校訪問・バスケットボールクリニック
・開催場所：市内小学校４校、東広島運動公園体育館
・開催月：９月（Ｂ１リーグの開幕に合わせて調整）
・対象者：主に市内小中学生

事業の概要

ウ　地域におけるスポーツ活動と高齢者の運動習慣づくり（うち 2,931 千円）

（ｱ）地域で活躍する人材の育成

ａ　スポーツ推進委員

各地域におけるスポーツの普及、実技指導及び助言を行うスポーツ推進委員を委嘱し、資質向上に向けた研修会を開催した。

・任　期：令和４年４月～令和６年３月
・委嘱人数：８０人
・研修会：市主催研修会（３回）
　　呉・賀茂地区、広島県、及び全国大会（合計７回）
・協力支援事業：市主催事業（市民スポーツ大会・新春駅伝大会等）
　　県パラスポーツ協会主催事業（フライングディスク大会等）

スポーツ推進委員（ペタンク研修会）

ｂ　コミュニティ健康運動パートナー

地域住民の健康を地域で支える仕組みづくりに向け、コミュニティ健康運動パートナーを育成するとともに、健康寿命の延伸に向けて高齢者が無理なく取り組むことができるスポーツの普及を支援した。

【活動指標】

生きがい健康体育大学受講者：３０人⇒３４人
コミュニティ健康運動パートナー登録数：３０人⇒２７人

【成果・課題】

ペタンクやクッブなどのニュースポーツやウォーキングなど、地域ごとに独自の活動が広がりつつある。

地域の健康づくりには、スポーツ推進委員やコミュニティ健康運動パートナーの役割が重要であることから、連携を深める必要がある。

事業の概要			
戦略	3　スポーツの活動支援の充実	予算　11,221 千円	決算　10,267 千円
事務事業	3-1　スポーツ活動支援事業	予算　11,221 千円	決算　10,267 千円

内容

3-1_スポーツの活動支援の充実

① スポーツ団体の育成支援(5,974 千円)

ア 市内スポーツ団体に対する支援(うち 5,974 千円)

(ｱ) 東広島市スポーツ協会に団体運営補助金の交付(うち 5,924 千円)

団体育成費：加盟競技団体等（23 団体）に対する事業費等

地域振興費：加盟地域団体（5 団体）に対する事業費等

事　業　費：主催事業（トップアスリート招聘、ＳＤＧｓ推進、シニア向けスポーツ活動支援等）

(ｲ) 広島県パラスポーツ協会特別会員負担金（うち 50 千円）

② 競技スポーツの振興(4,260 千円)

ア 全国大会出場者、全国大会開催団体に対する支援(うち 4,260 千円)

(ｱ) 出場奨励金(うち 4,260 千円)

競技力の向上を図ることを目的に、全国大会又は国際大会に出場するものに奨励金を交付し支援した。

a 全国大会

交付金額（個人）：10,000 円

交付金額（団体）：５人まで　50,000 円

６人以上　10,000 円×人数（上限 150,000 円）

b 国際大会

交付金額（個人）：20,000 円

交付金額（団体）：５人まで　100,000 円

６人目以上 20,000 円×人数（上限 300,000 円）

※対象者は、市内に住所を有する者に限る。

【活動指標】

a 全国大会

個人：１２０件⇒１７７件

団体：２５件⇒２８件

b 国際大会

個人：６件⇒１件

団体：０件⇒１件

【成果・課題】

全国大会等への出場者数は、当初見込みを上回っており、本市の競技力は向上していると考えられる。

対象者全員に、交付できるよう、本制度の更なる周知に努める必要がある。

令和４年度　分野別基盤事業（決算）シート

まちづくり大綱	３　人づくり

内容

＜こども未来部＞

（1）幼稚園の管理及び運営（50,008 千円）【１０款４項１目】

①　幼稚園の運営

幼稚園の運営に必要な人件費、消耗品及び備品の購入等

②　幼稚園の管理

幼稚園の施設や設備を維持管理するための業務委託等

③　八本松中央幼稚園の解体　（うち 1,732 千円）

八本松駅前土地区画整理事業の区域内にある八本松中央幼稚園（令和５年３月閉園）の解体設計及び備品撤去等

（2）幼児教育の支援（383,894 千円）【１０款４項１目】

①　私立幼稚園への助成（うち 1,568 千円）

私立幼稚園の円滑な運営及び幼児教育の充実を図るための支援

②　無償化対象者への給付（うち 290,611 千円）

利用料や預かり保育料等の対象者への給付

＜学校教育部＞

（1）小学校の管理（751,479 千円）【１０款２項１目】

①　小学校の運営

小学校に必要な消耗品、備品の購入等

ア　新型コロナウイルス感染症対策に必要な保健衛生用品等購入に係る経費　（うち 8,396 千円）

②　小学校の管理

小学校の施設や設備を維持管理するための業務委託及び既設仮設校舎リース料等

③　仮設校舎リース等に係る経費

ア　既設の仮設校舎リース料

【新】イ　龍王小学校仮設校舎建築費（リース）（うち 66,054 千円）

児童数増に伴う教室不足に対応した。

（2）小学校の教材整備（26,417 千円）【１０款２項２目】

授業に必要な教材等の物品購入に係る経費

（3）中学校の管理（342,793 千円）【１０款３項１目】

①　中学校の運営

中学校に必要な消耗品、備品の購入等

内容
ア　新型コロナウイルス感染症対策に必要な保健衛生用品等購入に係る経費　（うち 3,006 千円） ② 中学校の管理 中学校の施設や設備を維持管理するための業務委託及び既設仮設校舎リース料等 ③ 仮設校舎リース等に係る経費 ア　既設の仮設校舎リース料 (4) 中学校の教材整備（17,337 千円）【１０款３項２目】 授業に必要な教材等の物品購入に係る経費 (5) 学校体育施設の市民開放（7,460 千円）【１０款６項２目】 市内公立の小学校及び中学校の体育施設を、学校教育に支障がない範囲内で、スポーツ・レクリエーション活動を行う市内在住者で構成された団体に開放した。 (6) 学校給食の管理（12,220 千円）【１０款６項３目】 ① 給食従事者の健康診断及び学校給食センター内衛生管理検査の実施　（うち 4,663 千円） 【検査内容】定期健康診断（7～8 月）、腸内細菌検査（毎月 2 回）、ノロウイルス検査（10～3 月に月 1 回）、衛生管理検査（年 2 回） 【健康診断対象給食従事者人数】94 名 ② 給食従事者への研修の実施（うち 0 千円） 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修の開催を中止した。 ③ 各小中学校及び幼稚園配膳室の物品等の管理（うち 2,885 千円） ④ 学校給食費の公会計に係る諸経費（うち 4,672 千円） ア　学校給食費決定通知書等送付 イ　学校給食費決定通知書印刷業務 ウ　学校給食費管理システム保守管理 (7) 学校給食センターの運営（1,851,130 千円）【１０款６項３目】 ① 東広島学校給食センター運営 ア　食器老朽化に伴う更新（うち 19,404 千円） 耐用年数５～６年を大幅に超過した１３年以上の使用により、表面のコーテイングが剥がれ、汚れが落ちにくいなど衛生上の問題や、破損枚数も年々増加していることから、給食用食器ボール及びトレーを更新した。 ② 西条学校給食センター運営 ③ 東広島北部学校給食センター運営 ④ 安芸津学校給食センター運営 ア　食器老朽化に伴う更新（うち 3,685 千円） 耐用年数５～６年を超過した８年以上の使用により、表面のコーティン

内容
グが剥がれ、汚れが落ちにくいなど衛生上の問題や、破損枚数も年々増加していることから、給食用食器ボール及びトレーを更新した。

＜生涯学習部＞

（1）成人式の開催（7,466 千円）【１０款５項１目】

新成人の前途を祝するとともに、成人として自らが社会を構成する一員であるという自覚を促すことにより、青少年の健全育成を図るため、「成人を祝う会」及び「二十歳のつどい」（令和４年度から成人年齢引き下げ後の対応として、20歳を対象として成人式「二十歳のつどい」を開催することとしたもの）を開催した。

①　令和３年度分　※新型コロナウイルス感染症拡大により延期したもの

【場　所】　運動公園体育館

【開催日】　令和４年５月４日

【出席者数】1,217 人

【実行委員】市内中学校卒業生各１人、計 17 人で構成。開催準備及び当日の役割分担等を行った。

②　令和４年度分

【場　所】　運動公園体育館

【開催日】　令和５年１月９日

【出席者数】1,321 人

【実行委員】市内中学校卒業生各１人、計 17 人で構成。開催準備及び当日の役割分担等を行った。

全体会場

誓いの言葉

（2）児童青少年センターの管理（19,284 千円）【１０款５項１目】

①　人件費等にかかる経費

ア　児童青少年センター

センター所長１人、活動推進員１人

イ　第２児童青少年センター

センター所長（アと兼務）、活動推進員２人

②　施設維持管理費

事務費、委託料、使用料及び賃借料等